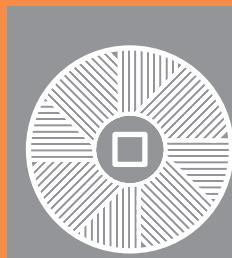
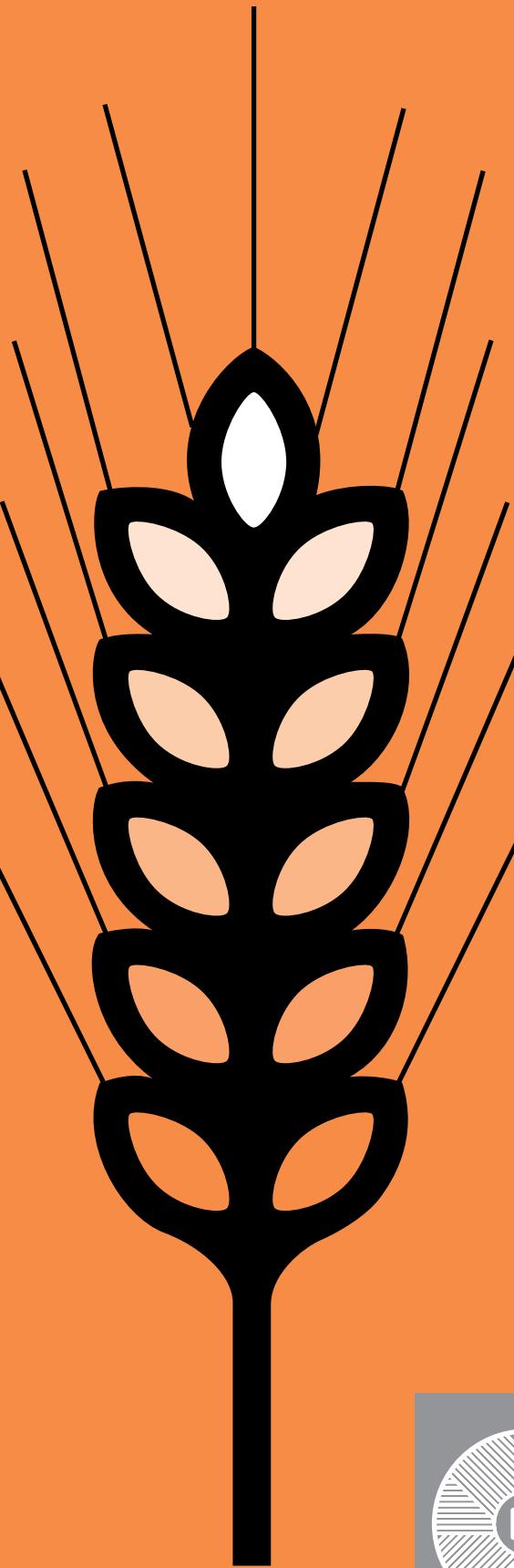


ISSN0913-8838

製粉 振興

2011
No.530
2



財團
法人
製粉振興会

★ 目 次

平成23年の課題について 3

23年産国内産小麦の取引 5

製粉協会 常務理事 満 留 幸 男

オーストラリアにおける小麦の生産と輸出の動向

—変動の激しい生産量と国際市場への対応— 15

農林水産省農林水産政策研究所 企画広報室企画科長 玉 井 哲 也

まだまだ、泡とおいしさ 21

和洋女子大学教授 お茶の水女子大学名誉教授 畠 江 敬 子

世界の粉界展望 26

業務日誌 23

業界ニュース 24

国内資料 44

編集後記 50

平成23年の課題について

平成22年はEUやロシアにおける高温乾燥気候による小麦減産懸念をきっかけとした穀物相場の上昇、輸入小麦の即時販売方式への移行と民間備蓄の開始、政府の環太平洋経済連携協定(TPP)への参加検討表明、平成23年産国内産小麦の民間流通の仕組の一部変更など大きな動きがあった。それらを受けて平成23年の課題を整理してみたい。

1点目は即時販売方式及び備蓄制度の定着である。昨年10月に輸入小麦の壳渡制度が即時販売方式に移行し、輸入小麦については検収後直ちに製粉企業が買い受ける仕組みとなった。また、備蓄については製粉企業は自ら保有している0.5ヶ月分の在庫に加え、それまで国が備蓄していた1.8ヶ月分の小麦在庫と合わせて2.3ヶ月分を民間備蓄することとなり、国はその内1.8ヶ月分の保管料経費を助成することとなった。しかし、このところオーストラリア、カナダなど生産地における天候不順による小麦集荷の遅れや積出港の船混みにより、本船の日本到着に遅れが出ており、一部で製粉企業に対する小麦供給に支障を来たす事態も起きている。不測の事態に際しては、臨機応変な対応が取れるよう製粉企業、農水省、商社、サイロ会社が協議し、国民の主要食糧である小麦の安定調達を確保することが必要である。これら関係者の努力により即時販売方式及び備蓄制度の定着に向けて取り組んでいかなければならない。

2点目は変更された平成23年産国内産小麦の民間流通の仕組を周知徹底することである。昨年10月、生産者と実需者が協議を重ねてきた国内産小麦の民間流通の仕組が決定した。平成22年産との変更点は値幅制限を基準価格の±30%とすること、輸入小麦壳渡価格の変動に応じ価格の事後調整を実施することの2点である。今回の変更に伴って平成23年産国内産小麦は平成23年4月期以降、輸入小麦の壳渡価格の改定に合わせ、計3回価格が変更されることとなる。背景としては、平成19年に輸入小麦の相場連動制が導入されて以降国際的な小麦相場の変動によ

り、国内産小麦の価格が輸入小麦の価格を大きく上回るというアンバランスが生じていたことが挙げられる。製粉企業は仕組みが変更に至った背景や仕組みの変更の内容について小麦粉関連業界、流通業界にきちんと説明し理解を得て、国内産小麦の流通に支障を来たさないよう取り組んでいかなければならない。

3点目は2年半ぶりに大幅引き上げされるであろう輸入小麦政府壳渡価格への対応である。昨年夏以降、EUやロシアにおける高温乾燥による小麦減産、ロシアの穀物輸出禁止の発表、豪州などでの天候不順による減産・品質懸念、米国産小麦の輸出拡大などの影響により国際的な小麦相場が上昇している。すでに公表されている政府買付価格からすると、4月の輸入小麦政府壳渡価格の改定において、平成20年10月以来の大幅な引き上げになる見込みである。相場連動制は小麦相場の変動が小麦粉以降の製品に反映されていかないと健全に機能しない仕組みであり、大幅な原料コスト増は製粉企業、小麦粉関連業界、流通業界の自助努力のみで吸収できるものではない。製粉産業は改めて制度の主旨を踏まえ十分説明を尽くし、広く消費者の理解が得られるよう努めて行かなければならない。

4点目は日本のTPP参加検討の行方についてである。昨年11月、日本政府は「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定し、TPPについては、情報収集を進めながら、国内の環境整備を進めるとともに関係国との協議を開始するとの方針を表明した。TPPについては現時点では今後の動向やその内容が不明であるが、決定内容によっては製粉産業は重大な影響を受けると考えられる。製粉産業は情報収集に努め、その時点での動きを踏まえて適時適切に関係者に働きかけを行って行かなければならない。

現在、農林水産省において食品産業の将来ビジョンの検討が行われており、続いて麦関連産業の将来ビジョンの検討が始まると見込まれている。製粉産業はこの1年前述した諸課題に取り組んでいくとともに、国の政策、制度の検討において、主要食糧である小麦及び小麦粉の量・価格・品質において安定供給の確保がなされることを最重要の課題として取り組んでいくことが大切である。

23年産国内産小麦の取引

満 留 幸 男

I はじめに

23年産国内産小麦の入札は、落札価格を国内産小麦の引取時期の輸入小麦の政府売渡価格の変動率に応じて事後調整を行うという新しい方式の下で行われた。例年より4ヶ月遅れの12月実施となった。

国内産小麦は、播種前に取引数量、取引価格を決める、いわゆる播種前契約となっているが、19年4月以降、小麦の消費量の大宗をしめる輸入小麦の政府売渡価格の決定方式が、年間固定の標準売渡価格方式から国の取得価格に応じて決めるいわゆる国際相場連動制(当面年2回の価格改定)となったことにより、国内産小麦の買い手である製粉企業等は国内産小麦が出回る1年先の輸入小麦の価格水準を見据えて、国内産小麦の入札に臨まなければならなくなつた。

しかし、国際相場連動制となった以降、小麦の国際相場の変動は大きく、関係者の想定した価格関係とは大きく異なり、その結果、品質的に外国産より劣るといわれる国内産小麦の価格が外国産より高くなるという、価格逆転現象が生じてしまった。

このため、品質に応じた正常な価格関係の下で円滑な取引が可能な仕組みの構築が課題となっていたが、23年産において、ようやく生産・実需者間で合意が整い、新しい仕組みの下で入札を実施することになった。

以下、本稿では、取引の仕組みの課題、検討経過、新しい仕組みの下での入札取引の結果等を振り返ってみたい。

II 23年産の取引の仕組み

1 検討の経過

(1) これまでの検討の経過

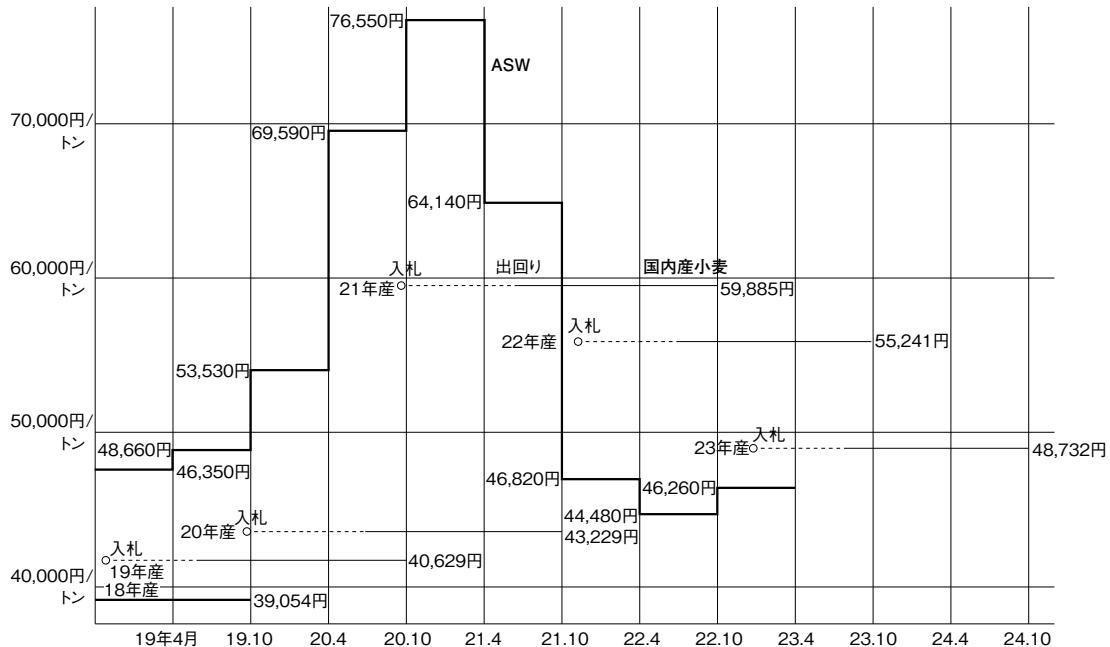
国内産小麦の取引の仕組みのあり方については、国の輸入小麦の政府売渡価格の決定方式が19年4月から国際相場連動制となった以降、播種前契約、特に価格決定の時期等について実需者サイドから見直しが求められていた。

実需者サイドは、国内産小麦は、播種前に取引数量・価格を決めることになっているが、出回りは翌年6月以降で、それから1年かけて使用することになるため、価格決定から出回り・使用まで相当のタイムラグが生じることになるが、1年後の輸入小麦の政府売渡価格の水準を見越しながら国内産小麦の価格設定を行うことは現実的に難しく、小麦の国際相場の変動によっては、関係者が想定した価格関係とは異なった状況になる可能性がある。これをやむを得ないと見るのは無理があり、価格リスクを軽減する方策が必要である。というものであった。

22年産の仕組の検討をしていた21年春以降、上昇を続けていた小麦の国際相場は一転して下降局面となり、21年10月期の外国産小麦の政府売渡価格の改定においては、輸入小麦の政府売渡価格が21年産の国内産小麦価格を下回ると見込まれ、関係者が恐れていた事態が現実のものとなろうとしていた(表-1)。

このため、実需者は、①播種前契約、播種前の価格決定方式の見直しが必要、②輸入小麦の政府売渡価格の変動幅に鑑み値幅制限の拡大、

表-1 輸入小麦と国内産小麦の価格関係



・ASWは、政府売渡価格(円／トン、消費税込)

・国内産小麦は、落札加重平均価格(円／トン、消費税込)

等を要請したが、生産サイドは、国内産麦の安定供給と営農の安定は、播種前契約を基本とする現行のルールによって維持されているものであり、数量のみの播種前契約とか、価格決定後の価格調整は行うべきではない。として真っ向から意見が対立し解決の目途がたたない状況であった。

しかしながら、22年産を播種前契約とするには、入札実施まで時間が迫っていたこともあって、仕組みの見直しは値幅制限を±7%から±10%に拡大するにとどめ、課題の検討は、「23年産の民間流通の仕組みについては、22年産の入札取引終了後に成案が得られるよう早急に検討を開始する。」こととして、翌年に持ち越されることになった。

(2) 23年産の検討

23年産小麦の取引の仕組みについては、22年産の仕組みの決定経過を踏まえ早期に検討を開

始することとし、21年12月22日に民間流通連絡協議会作業チームが開催された。作業チームでは、作業チームの下に検討会を設置して検討を進めることができた。

(3) 検討会の開催

第1回の検討会は、22年2月4日に開催され、生産者・実需者双方から、それぞれの現行の仕組みに対する問題点について意見が述べられた。3月には課題の整理・議論が、4月には課題に対する実需者サイドの見解が述べられたが、その後4ヶ月の中止を得て8月に議論を再開し、10月15日に開催された7回目の検討会においてようやく検討会としての意見の集約をみた。

(4) 検討会における議論

ア 実需者サイドの意見

輸入麦の売渡価格の決定方式が19年4月から国際相場連動制となったが、一方、国内産小麦は、出回り始める1年以上前の播種前に価格を決

める方式となっている。

国内産小麦の出回る1年先の輸入小麦の政府壳渡価格の水準を見越しながら、国内産小麦の価格設定を行っていくことは極めて難しい。

現に、現在製粉企業が使用している21年産小麦の価格は、輸入小麦(ASW)より高いという、過去に例のない逆転現象が生じており、国内産小麦の円滑な消費・流通の障害となっている。

22年産については、値幅制限の見直しにより(7%から10%に拡大)価格差が一部縮小したが、22年4月の政府壳渡価格の水準の如何によっては、価格差が再び広がる可能性もあり、値幅拡大による調整は、根本的な解決策とはなっていない。

このことが、結果として国内産小麦の需要が減少し、ひいては自給率向上の足かせになるのではないかと懸念している

これらの事態を真摯に受け止め、市場原理に沿った価格形成が可能な仕組みが必要である。

具体的には、輸入小麦の価格決定方式が国際相場連動制のもとで、国内産小麦の取引数量、価格を播種前に決めるのは、どう見ても無理がある。播種前ではなく収穫後に入札により価格を決める方式にすべきであるが、生産者サイドがどうしても播種前契約でなければならないのであれば、事後に単純に価格を補正するルールを作るべきである。というものであった。

イ 生産者サイドの意見

22年産小麦の相対取引(販売予定数量のうち入札取引(30%)を差し引いた残りの数量(70%))の結びつきが難航したが、これは現行の取引の仕組みの矛盾が顕在化していると言わざるをえないのではないかと考えるが、国内産麦は販売代金のみでは生産を継続していくことは困難なので国の助成措置が講じられている。また、国内の麦の流通の大半は輸入麦であり国家貿易

による国の一元的な管理となっており、国内麦の流通は輸入麦の価格動向に大きく左右される。従って、国内産麦の取引の仕組みを検討するに当たっては、「自給率向上」、「国内麦優先」の観点から国の政策の中味を踏まえて判断していく必要があるが、国は、23年度から戸別所得補償制度の本格導入し麦も対象品目とするとしているが、制度の枠組み、補償水準等は現段階では不詳である。したがって、現状の国内産麦の取引の仕組みが抱える問題を洗い出し、どの様な検討ができるか整理はするが、戸別補償制度等の検討に先行して国内産麦の取引の仕組みを判断することはできない。としていた。

しかし、8月になって戸別所得補償制度に関する国の考え方、概要があきらかになったこともあり、ようやく生産者サイドの考えが示されることになった。

その内容は、国は新基本計画において、食料自給率50%達成の目標を掲げ、小麦は重要品目として180万トンの生産目標倍増の目標を定めたが、これが円滑に流通されることが必要である。民間流通の仕組みについては、麦を取り巻く環境は、自給率向上、農政の転換、輸入麦の相場連動制への移行等、大きく変化ってきており、新たな環境に対応し、国内麦が今後とも円滑に流通する仕組みを構築する時期にきているとの考えの基に、23年産以降の仕組みの構築に当たっては、播種前契約を大前提としつつ、取引の仕組み全般にわたって幅広い議論をしたいとの意向が示された。

2 23年産取引の仕組みの決定

生産者サイドの意見の表明によって、ようやく実質的な議論が開始されることになるが、この時期は通常であれば入札を実施する時期であり、これから仕組み全般にわたって検討を開始

するには遅すぎ、また、生産者サイドが検討の大前提とする播種前契約に間に合わないことがあって、論点をしぼって議論を行うこととし、ようやく10月15日に開催された7回目の検討会において意見を集約し、10月28日開催された作業チームに報告・了承を得て、翌29日に開催された民間流通連絡協議会において23年産の仕組みとして決定された。

決定内容は、次のとおりである。

(1) 入札取引における値幅制限

小麦の値幅制限は、22年産の±10%から±30%に拡大する

(2) 価格の事後調整

入札取引または相対取引により契約された価格に、平成22年10月期の輸入小麦の政府売渡価格(5銘柄平均)と実際の取引時点の輸入小麦の政府売渡価格(5銘柄平均)の変動率を乗じることにより、価格の事後調整を実施する。

(3) その他

(1)、(2)以外の23年産民間流通麦の仕組みについては、22年産民間流通麦の仕組みと同様とする。

なお、24年産以降の民間流通麦の仕組みについては、「民間流通麦の仕組みに関する検討会」で生産・実需双方から出された意見を踏まえ、早急に議論を開始する

III 地方協議会の開催

取引の仕組み決定後、11月上旬から中旬にかけて、短期集中的に地方協議会が開催された。地方協議会では産地と実需者間で、契約数量の許容値について協議・決定するほか、作柄、麦の品質向上の取組、品質評価、品質・物流面の改善要望、販売予定・購入希望数量についての意見・情報交換を行うことになっている。

しかし、仕組みの決定が遅れ播種後の開催となつたため、実需者との協議を反映した作付けが行えるスケジュールとはならなかったのは遺憾であった。

IV 全国協議会

地方協議会の協議、意見、情報交換を経て22年11月26日に全国レベルの民間流通連絡協議会が開催された。協議会では、生産サイドから販売予定数量が、実需サイドから購入希望数量(表-2)が、入札実施機関である全国米麦改良協会から入札関係スケジュール、義務上場・希望上場銘柄及び数量、上場銘柄の基準価格等が提示され、これらについて次のように決定された。

(1) 販売予定数量

生産サイドから販売予定数量として、22年産の909千トンを42千トン上回り民間流通始まって以来最大の951千トンが提出されたが、23年度の販売予定数量として協議会で了承され、この数字をもとに上場銘柄が決定されることにな

表-2 販売予定数量と購入希望数量

(単位 トン)

| | 20年産 | 21年産 | 22年産 | 23年産 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 販売予定数量 | 886,569 | 905,675 | 908,662 | 950,650 |
| 購入希望数量 | 832,841 | 880,344 | 817,572 | 859,311 |
| 差 | 53,728 | 25,331 | 91,090 | 91,339 |
| ミスマッチ超過 | 103,268 | 84,699 | 127,993 | 172,173 |
| 不足 | -49,540 | -59,368 | -36,903 | -80,834 |

った。

北海道・府県産別に見ると、北海道産が631千トンで前年産を45千トン増加したが、府県産は323千トンで前年産より3千トン減少した。北海道産の増加は「ホクシン」より反収の高い「きたほなみ」への品種の全面切り替えが行われたことによるもので、府県産の減少は作付面積の減少によるものであった。

(2) 購入希望数量

一方、実需者からの購入希望数量は、859千トンで前年産を42千トン上回った。これを北海道産、府県産別に見ると、北海道産に対する購入希望数量は、前年産より39千トン増加し526千トンで民間流通が始まって以来の最大の購入希望数量となったが、府県産も前年産を3千トン増加し337千トンとなった。

(3) 需給ギャップ

全国の販売予定数量と購入希望数量の差は、販売予定数量が購入希望数量を前年同数の91千トン上回った。これを産地銘柄別にみると、購入希望を上回る産地銘柄のいわゆる過剰数量は172千トンで、一方、下回る銘柄の不足量は81千トンで、過剰が前年産より44千トン、不足が43千トンそれぞれ増加した。供給過剰となった産地銘柄は北海道産きたほなみが144千トン、佐賀県産シロガネコムギが11千トン上回りこの2銘柄で90%を占めた。

(4) 入札上場銘柄

入札上場銘柄は、販売予定数量が3千トン以上で県内流通の割合が80%以下の産地銘柄は義務上場、それ以外の産地銘柄は希望上場できることになっている。23年産の上場銘柄は、26銘柄（義務23、希望3）で、22年産の29銘柄（義務28、希望1）に比べ、3銘柄減少した。

義務上場要件の販売予定数量3千トンを充たし新規上場することになった銘柄は、群馬県産

さとのそらの1銘柄、販売予定数量が減少し義務上場要件を充たさず義務上場から外れることになった銘柄は、北海道産ホクシン、同きたもえ、宮城県産シラネコムギ、群馬県産きぬの波、埼玉県産あやひかり、佐賀県産ニシノカオリ、の6銘柄であった。このうち、宮城県産シラネコムギ、群馬県産きぬの波の2銘柄と、昨年、義務上場から希望上場に回った栃木県産農林61号の3銘柄が希望上場することになった。

(5) 上場数量

上場数量は、販売予定数量が前年産を上回ったこともあって、9千トン増加し251千トンとなり、半数の126千トンが2回に分けて入札に付されることになった。

(6) 入札日

入札は、例年通り2回行うこととし、第1回目は12月10日、第2回目は12月20日に決定した。例年の8月実施からすれば、4ヶ月遅れの異例の時期の実施となった。

V 入札結果

(1) 入札環境

輸入小麦（ASW）の政府壳渡価格は、21年10月期の価格改定において46,820円／トンとなって21年産国内産小麦の落札加重平均価格59,885円／トンよりやすくなったが、その後の価格水準はおおむね同水準の45千円／トン前後（22年4月44,480円、22年10月46,260円）で推移した。一方、22年産国内産小麦の加重平均の落札価格は7%下げたが、55,241円／トンで逆転の状況は改善されるには至らなかった。

23年産の取引の仕組においては、上述のとおり新たに落札価格の事後調整措置が盛り込まれ輸入小麦の価格変動リスクから開放されたこと也有って、入札の最大の関心は、大幅に拡大された値幅制限（±30%）のなかで、国内産小麦の

居所がどう探られるかであった。

一方、国内産小麦は21、22年産とともに販売予定数量を30万トン下回る2年連続大幅減産によって国内産小麦の需給はタイトな状況にあつた。また、日本麵用小麦の供給先であるASWの主産地である西豪州において、百年ぶりの大干ばつが伝えら麵用小麦の需給逼迫の懸念も伝えられ、これらがどのように影響するか大変難しい入札前の環境であった。

(2) 落札結果

落札結果は、売手別、産地銘柄別の上場数量、申込数量、落札数量、落札残数量、申込倍率、落札加重平均価格が、第1回目、第2回目ともに入札日に公表された(表-3、4、5、6)。

ア 申込倍率

上場数量に対する申し込み倍率は、22年産は0.98倍(1回目は1.12倍、第2回目は0.83倍)と低調であったが、一転して申し込み限度いっぱいの1.45倍(第1回目は1.4495倍、2回目は1.445倍)の申し込みとなり、極めて引き合いの強いものとなった。仕組みの見直しによる価格変動リスクがなくなったことや、麵用小麦の需給関係が影響したものと見られる。

イ 落札数量・不落札数量

申し込み限度いっぱいの申し込みが行われたこと也有って、22年産に比べてまた民間流通始まって以来の極めて高い落札結果となった。

1回目が126千トンの上場数量に対して125千トンが落札、不落札9百トン、落札率99.3%、2回目が126千トンの上場数量に対して123千トン

表-3 平成23年産小麦の入札上場数量と落札状況

| | 産地 | 銘柄 | 第1回入札 | 第2回入札 | 全体 |
|----------|------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 入札上場数量 | 15道県 | 26産地銘柄 | 125,790トン | 125,580トン | 251,370トン |
| 申込数量 | | | 182,340 | 181,450 | 363,790 |
| 申込倍率 | | | 1.45 | 1.44 | 1.45 |
| 落札数量 | | | 124,860 | 122,910 | 247,770 |
| 落札残数量 | 7県 | 9 | | | 3,600 |
| 1回目 | 5県 | 7 | 930 | | |
| 2回目 | 5県 | 5 | | 2,670 | |
| 落札率 | | | 99.3 | 97.9 | 98.6 |
| 落札価格(税込) | | | 47,191 | 50,297 | 48,732 |
| 基準価格(〃) | | | 55,398 | 55,532 | 55,465 |
| 価格変動 | | | ▼14.8 | ▼9.4 | ▼12.1 |

表-4 年産別入札結果

| | 19年産 | 20年産 | 21年産 | 22年産 | 23年産 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 申込倍率 | 1.43 | 1.43 | 1.45 | 1.0 | 1.45 |
| 落札率 | 95.6 | 96.4 | 98.1 | 97.6 | 98.6 |
| 落札残数量 | 10,300 | 8,580 | 4,610 | 52,960 | 3,600 |
| 基準価格 | 39,361 | 40,545 | 56,024 | 59,739 | 55,465 |
| 落札加重平均価格 | 40,544 | 43,228 | 59,885 | 55,241 | 48,732 |
| 価格変動率 | +3.0 | +6.6 | +6.9 | ▼7.5 | ▼12.1 |

が落札、不落札27百トン、落札率97.9%、全体で251千トンの上場数量に対し248千トンが落札、不落札が36百トン、落札率98.6%であった。

ウ 落札価格

全銘柄の落札加重平均価格(税込み)は、1回目は47,244円／トンで基準価格に比べ14.3%安、2回目は50,297円／トンで基準価格に比べ9.4%安と、ともに値下がりしたが、2回目は値下げ幅が縮小し価格は戻すことになった。

1回目の入札は、国内産小麦の居所調整をどのように図るかであったが、値幅が±30%と大きく広がった中で、落札できないリスク、落札できても高値掴みとなるリスクがあり、難しい判断であったものとみられ、その結果が14%値下がりとなったとみられる。

2回目の入札においては、1回目の落札価格を基準にどうするかであったとみられるが、1回目の入札倍率、落札率が高く極めて引き合いが強かったことから、落札できなかった企業があつたことが推測されるが、このような企業が買いに向かったものとみられ、その結果、2回目の落札価格はことごとく1回目の落札価格を上回り、値を戻したのではないかとみている。

全体(1、2回加重平均)では、48,732円／トンで基準価格の55,465円を6,733円下り、値下がり率は12.2%で、額、率ともに民間流通始まって以来のものとなった。

このような中にあっても値上がりした産地銘柄もあった。前年産も申し込み倍率が高くかつ全体が大きく下げる中で値下がり率が低く健闘したパン用小麦の北海道産春よ恋(+7.9%)、同キタノカオリ(+9.3%)、日本麵用小麦の福岡県産チクゴイズミ(+0.9%)の3銘柄である。

パン用小麦は、国内産として供給量も少なく現在でも引き合いが強い銘柄であることの反映ではないかとみられる。福岡県産チクゴイズミ

は、収穫期が早く来年の端境期に出回るということに着目されたのではないかとみている。

一方、値下がり率が高かったのは、パン用小麦として上場した残りの1銘柄である福岡県産ミナミノカオリ(-23.0%)が、春よ恋、キタノカオリ、が健闘する中で大きく値を下げた。

日本麵用では、北海道産きたほなみ(-13.3%)を除く高価格帯にあった香川県産さぬきの夢2000(-19.8%)、群馬県産きぬの波(-20.9%)、埼玉県産農林61号(-22.8%)、群馬県産つるぴかり(-22.1%)、兵庫県産シロガネコムギ(-18.3%)等ことごとく大きく値を下げた。また、低価格帯にあった茨城県産農林61号(-26.6%)、岐阜県産イワイノダイチ(-20.8%)、宮城県産シラネコムギ(-22.8%)も値下がり率が高かった。

値下がりはしたものの、チクゴイズミ(佐賀、-8.8%、大分、-10.2%)は値下がり率が比較的低かった。

エ 価格ランク

23年産の価格ランクを整理すると、次のようになつた(表-7)

パン・中華麵用小麦は、価格ランクは変わらなかつたが、春よ恋、が値上がりし一方ミナミノカオリが値下がりしたので価格差は拡大した。

日本麵用小麦は、価格ランクに変動が見られた。福岡県産チクゴイズミがランクを上げた反面、上位にあった群馬県産きぬの波、同つるぴかり、埼玉県産農林61号が下げた。上位ランクと下ランクの価格差は、値下がり額が上ランクほど大きかつたため価格差は縮小した。

オ 国内産小麦の落札加重平均価格と外国産小麦の政府壳渡価格の関係

23年産の国内産小麦の落札加重平均価格は48,732円となつたが、その時点の輸入小麦の政

表-7 23年産の落札結果(価格ランク)

| 単位 円／トン | 日本麵用 | | | | | パン・中華麵用 | | |
|------------|------------|-----|--------|-------|---------|---------|---------|------------|
| | 品名 | 県 | 数量 | 品名 | 県 | 数量 | | |
| 90,000 | | | | | | | 春よ恋 | 北海道 98,284 |
| 70,000 | | | | | | | キタノカオリ | 北海道 71,403 |
| 55,000 | | | | | | | | |
| 50,000 | さぬきの夢2,000 | 香川 | 52,120 | | | | | |
| | チクゴイズミ | 福岡 | 51,363 | | | | 1CW | カナダ 50,500 |
| | きたほなみ | 北海道 | 48,382 | 農林61号 | 群馬 | 47,921 | | |
| | きぬの波 | 群馬 | 46,457 | さとのそら | 群馬 | 47,275 | | |
| | シロガネコムギ | 福岡 | 45,411 | ASW | オーストラリア | 46,000 | | |
| | チクゴイズミ | 佐賀 | 45,278 | | | | | |
| 45,000 | | | | 農林61号 | 滋賀 | 45,028 | | |
| | チクゴイズミ | 大分 | 43,622 | | | | | |
| | ふくさやか | 滋賀 | 43,437 | | | | | |
| | シロガネコムギ | 兵庫 | 42,830 | 農林61号 | 埼玉 | 42,149 | ミナミノカオリ | 福岡 42,603 |
| | つるびかり | 群馬 | 41,381 | 農林61号 | 栃木 | 41,819 | | |
| | シロガネコムギ | 佐賀 | 40,188 | 農林61号 | 愛知 | 41,326 | | |
| 40,000 | イワイノダイチ | 愛知 | 39,851 | | | | | |
| | | | | 農林61号 | 三重 | 38,035 | | |
| | | | | 農林61号 | 岐阜 | 36,810 | | |
| | イワイノダイチ | 岐阜 | 34,926 | | | | | |
| | シラネコムギ | 宮城 | 34,294 | 農林61号 | 茨城 | 30,635 | | |

府壳渡価格は46,260円であり、22年産に比べ価格差は大幅に改善されたものの、逆転状況は変わらなかった。

23年産国内産小麦の落札価格は、22年10月期の輸入小麦の政府壳渡価格(5銘柄加重平均価格)を基本にして、引き取り時点の輸入小麦の価格変動率によって事後調整される。したがって、落札時点の輸入小麦の政府壳渡価格(22年10価格)との相対的価格関係が、23年産としては維持されることになる。

これを、どう評価するかは、23年産の出回り期を待たねばならない。

VI 相対取引

23年産の相対取引は、年明けの23年1月13日に生産者サイドから各実需者に提示があり、これ

により開始された。相対取引数量は、販売予定数量951千トンから落札数量248千トンを差し引いた残りの703千トンとなった。各実需者との協議を得て2月末には全体数量の結びつきを終えたい意向で取り進められている。

VII 終わりに

輸入小麦の国際相場連動制と国内産小麦の播種前契約の関係は、落札価格を単純に事後調整するということで整理が出来た。国の力も借りたが、生産・実需が直接話し合い・協議し決定できたことは長い民間流通の歴史の中で画期的なことである。

今後は、運用面で疑問が発生した場合は速やかに話し合いを行いより円滑な運営に努めるとともに、今回の経験を踏まえ、取引環境の変化に

応じて適宜適切に見直しを行っていくことが必要である。

また、国内産小麦に対する課題も多い。販売予定数量は951千トンとなったが、国の生産倍増計画もある。まずは目先の需給のミスマッチの解消と品質改善、生産コストの削減に努め、需要を見据えた生産拡大が必要である。

(製粉協会 常務理事)



オーストラリアにおける小麦の生産と輸出の動向

—変動の激しい生産量と国際市場への対応—

玉井 哲也

1. オーストラリアの今シーズンの小麦は豊作との予測

2010年12月7日、オーストラリア政府の農業資源経済・科学局(ABARES)は、「作物報告」を公表しました。これは、オーストラリアの主要な穀物・油糧種子等の生育状況や収穫量の見通しについての報告であり、ほぼ四半期ごとに公表されます。

今回12月の報告では、2010-11穀物年度(2010年10月～2011年9月)の収穫量は、2,680万トン、輸出は1,600万トンに達しいずれも前年を上回るとの予測です。2,680万トンという収穫量が実現すれば、オーストラリア小麦史上最大となります。前回9月の報告では、イナゴ(locusts)による被害が懸念されていました。その後、場所によってはイナゴの発生が報じられましたが、総じてみれば大きな被害にはならないようです。

生産者団体からは、12月前半以後の大雨による洪水被害等があるためABARESの予想収穫量は過大であるとの指摘も出ていますが、既に収穫が始まっている時点での今回の予測ですから、今後多少下方修正されるとしても、最終的に昨年を相当程度上回る収穫量になると考えられます。ただし、特に東部諸州の産地で収穫時期に降雨が多かったことから、収穫の遅れと品質の低下(穀粒の軟化、タンパク質含有率の低下)については、ABARESの報告の中でも指摘されています。

2. オーストラリアの小麦の内外における地位

オーストラリアにおいて、小麦は最重要の穀物であり、全穀物生産量の過半を小麦が占めています(小麦以外の主要穀物は、大麦、ソルガム、オート麦等です。米も生産しますが、大麦等に比べれば少量であり、トウモロコシ、大豆の生産はわずかです。)。また、生産された小麦の大半が輸出されています。生産量に対する輸出量の割合は約7割に達します(最近10年間)。オーストラリアでは過去50年の間に人口が2倍となり、それに伴って小麦の国内消費量は倍以上に増加しています。しかしながら、生産量の7割を輸出するという割合は50年前と同じです。つまり、生産量そのものも2倍以上に増えているわけです。なお、小麦の輸入はほとんど行われていません。

このようにオーストラリア農業にとって、小麦は最重要作物の一つであり重要な輸出產品とも位置づけられていますが、国際的にみる場合、世界の総生産量に占めるオーストラリア小麦のシェアは3%程度にすぎません。ただし、輸出割合が多いことから、世界の総輸出量に占めるシェアは10%を超えます。このような状況から、オーストラリアの作況が世界の小麦市場に一定の影響を及ぼす一方で、オーストラリアの小麦農場の経営は、小麦の国際価格に大きく左右されるものとなっています。

3. 生産不安定なオーストラリア小麦

オーストラリアの小麦生産のもう一つの特徴として、その収穫量の不安定性が大きいことが挙げられます。世界で最も乾いた大陸と言われるオーストラリア州では、年平均降水量が465mmと少なく、しかも偏在しており、内陸部には砂漠が広がっています。さらに、年ごとで降り方の変動が大きいことも特徴です。

小麦は、東海岸(クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州)から南東部(ヴィクトリア州、南オーストラリア州)にかけてと南西端(西オーストラリア州)が主産地ですが、灌漑による小麦栽培はほとんど行われておらず天水のみに頼っていることから、しばしば干ばつに見舞われ、単収は年によって大きく増減します。

図1は、1961年以後の主要小麦生産国における小麦の生産変動の度合いを示すものです。各國の過去49年間の小麦生産量の平均値に対する、毎年の生産量とその前年との差の平均値の

比率を算出したものです。オーストラリアの生産量の不安定さはウクライナに次ぐものとなっています。なお、この図からは、旧ソ連の主要小麦産地(ロシア、ウクライナ、カザフスタン)の生産の変動が大きいことが目立ちますが、これら地域の変動には気候要因の他にソ連崩壊に伴う政治・経済の混乱が作用した部分もあったと思われます。

4. オーストラリア全体としては豊作ながら地域別には明暗

表1は、1996-97年度(小麦年度は10月から翌年9月)以後のオーストラリアの小麦生産量を州別で示したものです。年によって生産量の振幅がたいへん大きいことが見て取れます。作付面積は、国際価格や播種期の天候などにより左右されるものの、それほど極端に変動するわけではなく、収穫量の変化の多くの部分は単収の増減によって引き起こされています。

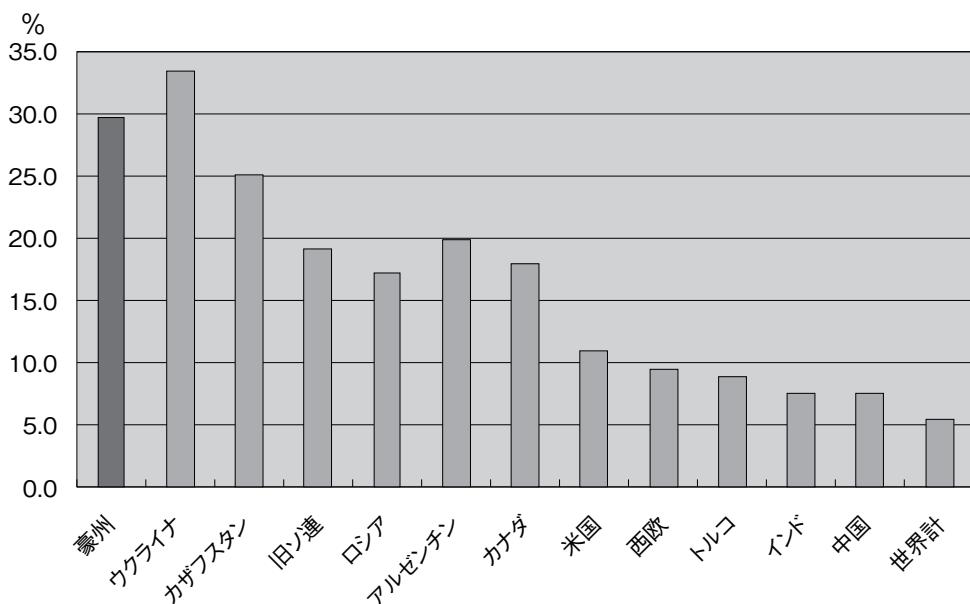


図1 主要生産国の生産量不稳定性

出典：FAOSTATの1961-2009年のデータからとりまとめ。旧ソ連は1991年まで、ロシア、ウクライナ、カザフスタンは1992年以後のデータによる。

表1 オーストラリアの州別小麦生産量の一覧表

| 年度 | Qld | NSW | Vic | SA | WA | Tas | 豪州全体 |
|---------|-------|--------|-------|-------|--------|-----|--------|
| 1996-97 | 1,980 | 8,363 | 2,262 | 2,795 | 7,516 | 8 | 22,924 |
| 1997-98 | 1,389 | 5,906 | 1,503 | 2,689 | 7,725 | 12 | 19,224 |
| 1998-99 | 1,941 | 6,563 | 1,462 | 3,310 | 8,170 | 18 | 21,464 |
| 1999-00 | 1,904 | 8,602 | 2,642 | 2,586 | 9,004 | 20 | 24,758 |
| 2000-01 | 1,157 | 7,867 | 3,080 | 4,162 | 5,814 | 26 | 22,108 |
| 2001-02 | 901 | 8,043 | 2,791 | 4,778 | 7,760 | 25 | 24,298 |
| 2002-03 | 601 | 2,497 | 890 | 2,072 | 4,047 | 25 | 10,132 |
| 2003-04 | 1,110 | 7,288 | 3,145 | 3,490 | 11,070 | 26 | 26,132 |
| 2004-05 | 1,170 | 7,537 | 1,927 | 2,621 | 8,619 | 30 | 21,905 |
| 2005-06 | 1,218 | 8,049 | 2,909 | 3,853 | 9,088 | 34 | 25,150 |
| 2006-07 | 777 | 2,568 | 879 | 1,446 | 5,134 | 18 | 10,822 |
| 2007-08 | 954 | 2,477 | 1,995 | 2,296 | 5,820 | 27 | 13,569 |
| 2008-09 | 2,016 | 6,963 | 1,756 | 2,376 | 8,274 | 35 | 21,420 |
| 2009-10 | 1,374 | 5,348 | 2,974 | 4,052 | 8,148 | 27 | 21,923 |
| 2010-11 | 1,440 | 11,850 | 4,428 | 5,475 | 3,600 | 31 | 26,824 |

出典：Australian Commodity Statistics. 穀物報告(2010年12月). 2010-11年度は、予測値。

注. Qld:クイーンズランド州、NSW:ニューサウスウェールズ州、Vic:ヴィクトリア州、

SA:南オーストラリア州、WA:西オーストラリア州、Tas:タスマニア州。

長期的な平均でみると西オーストラリア州が最大の生産州であり、小差でニューサウスウェールズ州が続きます。干ばつの影響を受ける州は年により異なり、干ばつ時の州ごとの生産量の変動も大きいのですが、それでも、通常1位、2位を占めるのはこの2州です。過去四半世紀を遡っても西オーストラリア州は常に2位以上を維持してきました。ところが、今シーズン(2010-11年度)は違います。豊作が予測されるニューサウスウェールズ州が1位となるのは当然としても、西オーストラリア州が一気に4位にまで後退しています。今シーズンの降雨がいつも増して産地によって偏っていたこと、それによる西オーストラリアと東部・南部との豊凶の差が大きかったことが伺えます。

2010年、東部・南部では、ニューサウスウェールズ州が最近の50年間で最大の降水量となっ

たのをはじめとして、観測史上有数の雨の多い年でした。これに対し、西オーストラリア州は州全体の平均では長期平均雨量と同程度だったのですが、小麦生産地帯である南西部においては乾燥状態が続き、観測史上最少の降雨量となりました。

9月発表の穀物報告でも、乾燥状態であることから、西オーストラリア州の生産量は、対前年を3割下回る606万トンとの予測でした。その後も雨が降らず、12月の穀物報告では更に半減して360万トンとなりました。逆に、東部・南部においては、西オーストラリア州での下方修正分を上回って増加修正され、オーストラリア全体としては、9月時点での穀物報告の予測を200万トン近くも上回り、史上最大級の収穫量を見込むこととなりました。

5. 豊作地域が抱える輸送問題

2010年夏にロシア等で異常な高温による穀物生産量の大幅減少となったことなどから、世界の穀物価格は上昇しました。小麦価格は、最近では2008年にも、一部の国の輸出規制等により高騰しましたが、この時、オーストラリアの小麦生産は、2006-07年度、2007-08年度と2年続いた深刻な干ばつのため落ち込んでおり、高騰した価格の恩恵をあまり受けられませんでした。その後、2008-09年度、2009-10年度とオーストラリアの生産量は回復しましたが、このとき小麦価格は下落していました。

生産量が増大しているもとの今回の小麦国際価格上昇は、オーストラリアの生産者にとって好機と言えます。西オーストラリアについては、生産量の極度の落ち込みを価格上昇が多少埋め合わせる程度かもしれません、歴史的な豊作となる東部・南部の小麦農家にとっては経営状況を改善する機会として期待されるところでしょう。

ところが、輸出に関して、輸出に伴う制度と輸送能力の問題があることから、地域によってはせっかくの小麦価格上昇の恩恵も十分に享受できないかもしれません。

まず問題となるのが、輸送能力です。当然のことですが、輸出するには、現物の小麦を産地から輸出先国・地域に運ばなければなりません。オーストラリアは海に囲まれているため船舶輸送により輸出します。港湾での積み卸し設備や船舶の運搬能力は整っていますが、問題となるのは、生産地から積み出し港までの国内輸送です。輸出用穀物は、生産地域にある集積施設まではトラック輸送され、そこから積み出し港までは主に鉄道によって運ばれます。

その、穀物輸送の中核をなす鉄道インフラは、地方部の路線を中心に老朽化が目立つ状態

にあります。その背景のひとつとして、近年好調な鉱業部門の輸送が優先され穀物の輸送路線への投資が不足していることが指摘されます。オーストラリアの鉄道輸送貨物の大部分を占めるのは石炭及び鉱石であり、穀物は1,500万トンの輸送量がありながらシェアとしては僅か2%程度にすぎないです。

次に、輸出にかかる制度です。オーストラリアでは長らく、小麦の輸出についてAWB社に輸出独占権を与える政策がとられてきましたが、この政策が変更され、2008年7月1日以後は、非バルクでの輸出は完全に自由となりました。バルク輸出についても一定の要件を満たして認証を受けた企業ならば輸出可能とされ、現在25社が認証を受けています。この制度変更により、AWB社のシェアは一挙に数割程度にまで低下するなど、オーストラリアの小麦輸出の様相は大きく変化しています。輸入側にとっては、AWB社以外とも取引が可能となり選択の幅が広がったといえるでしょうし、オーストラリア国内でも競争により効率化が進むことが期待されています。他方で、弊害のひとつとされるのが、輸送の競合です。AWB社が独占していたときは、同社が年間を通じた出荷計画を立て円滑な輸送が行われていたのですが、新制度のもとでは、同一時期に複数の会社の輸送需要が集中するため混雑や混乱が生じて輸送が滞るとの指摘があります。

2008年前半、特に西オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州において穀物輸出の遅れが生じた背景にはこうした事情がありました。この時、西オーストラリア州の穀物出荷会社CBHは道路輸送を臨時に急増するなどして急場をしのぎました。その後、政府による穀物鉄道輸送の点検作業が行われ、穀物出荷会社も長期契約により鉄道輸送能力を確保するなどの対応

を行いました。2009年には目立った輸送渋滞は生じなかったようです。

ところが、生産量が大幅に増えた今シーズン、特に昨シーズンの2倍以上の収穫が見込まれるニューサウスウェールズ州では、生産量に応じて輸出を拡大しようとしても、それを輸送網が消化しきれるかが課題となります。鉄道輸送能力不足が輸出量を抑制する可能性が高いと考えられます。現に、9月の穀物報告が輸出量を1,838万トンと予測したのに対して、民間の複数の分析が輸送能力からみて輸出量は1,600万トン程度が限度であろうと指摘していました。12月の穀物報告で、9月報告に比べて、予測生産量が200万トン近く増加したのに、予測輸出量を逆に200万トン以上減らし1,600万トンとした理由としては、この輸送能力不足を考慮したこととも考えられます。輸出しきれない穀物は国内での食用、家畜飼料用等となるでしょうが、国内で供給過剰状態となれば高価格は期待できないでしょう。多雨によって牧草の生育が良くなることも飼料穀物の需要・価格を抑制すると考えられます。

6. 我が国への影響

先にも言及したようにロシアの不作等により、昨今の小麦の国際価格は高騰していますが、オーストラリアで記録的な生産量が実現すれば、価格の更なる上昇への歯止めとなる効果が多少なりとも期待できるでしょう。小麦の輸入国である日本にとっては調達コストが抑えられるという点では歓迎される要素となります。

他方で、豊作であったオーストラリア東部から南東部においては、収穫期の雨による品質低下が生じていることから、食用向けの品質を満たさず、飼料向けになる小麦が増えています。12月の穀物報告で、予測輸出量を9月報告に比

べて大きく減らしたのは、輸送能力不足だけでなく、品質低下による輸出抑制作用も考慮したためでしょう。我が国にとっては、品質の良い小麦を十分に確保できるかが課題となるかもしれません、品質劣化の量と程度とが注目されます。また、オーストラリア東部から輸入する場合には、鉄道輸送の問題による出荷遅れの可能性にも留意が必要と考えられます。輸送インフラ不足のほか、クイーンズランド州では昨年末以来、洪水による輸送の停滞も続いているもようです。

7. さいごに

オーストラリアの今シーズンの小麦の豊作は確実と見られます。輸送能力の制約や品質の低下があることから、輸出量が飛躍的に増加することまでは見込めないようですが、ロシアの輸出規制等によりタイト化している世界の小麦市場を緩和する要素には違いありません。

ただし、留意すべきはこの一連の動向の背景にある不安定性です。今回は、ロシア、カザフスタンなどの不作が価格高騰につながり、オーストラリアの生産増加はこれを緩和する作用を持つ、という構図です。しかし、オーストラリアの豊作も、上述のように、不安定性の一つの表れと言えます。オーストラリアも同時に不作という事態もあり得たところです。

また、昨年末以来、まれに見る大規模の洪水に見舞われているクイーンズランド州では、農業にも大きな被害が出ています。同州は小麦の主要産地ではありませんが、飼料用のソルガムや砂糖については大産地であり日本にとっても主要な輸入先のひとつであることから、影響が懸念されます。

このような世界の食料需給の不安定に思いを致すとき、世界有数の食料輸入国である我が国

としては、総合的な食料安全保障の確立に努め
ていく必要を改めて感じるところです。

(注1) この原稿は、筆者の属する組織の見解を表現
したものではなく、筆者個人の見解を表現し
たものです。

(注2) この原稿は、2011年1月13日現在の情報に基
づいて書かれています。

（農林水産省農林水産政策研究所
企画広報室企画科長）



まだまだ、泡とおいしさ

畠 江 敬 子

シュークリーム、シューアラクレームのクリームを包む皮の部分、つまりシューというのはフランス語のキャベツのことで、その特徴は、加熱によって、キャベツ型の風船のように膨らんで元の体積の4倍になること、内部が空洞で膜で仕切られていないこと、それと外側の皮の部分は多孔質構造であること、である。

シュー生地がシューになるのは、水分の水蒸気への気化と空気の熱膨張で空洞が形成される事による。

シューの作り方

シュー生地を作るには、まず、鍋に水とバターを入れて加熱し、さらに小麦粉を入れて加熱する(1次加熱)。小麦粉がまとまったところで火から下ろして温度を下げる。さらに卵を入れて攪拌し、天板に絞り出してオーブンで加熱する(2次加熱)。ペースト状のシュー生地がキャベツ型に膨らむ。空洞の中にクリームを入れて出来上がりである。

とまあ、こう書くと簡単そうに聞こえるが、そうでもない。やはり、そこは調理科学の研究成果を知って作るとうまくできるのである。その一つは1次加熱の温度である。生地がオーブンで膨張するためには、小麦粉のでんぶんは糊化してのびやすくなっていて、グルテンの大部分が失活した状態が必要である。その温度とは77~78℃である。この温度より低い場合は膨化が悪いか、空洞の内部が多数の膜で仕切られて皮も硬くなる。この温度より高い場合はシューの膨化状態は良いが、硬く乾燥してつやがな

い。

次に卵を加えるのであるが、77~78℃のペーストに直ちに卵をいれると、卵は熱凝固してしまうので、卵タンパク質が変性しない温度まで下げる必要がある。その温度とは65~70℃である。ここまで温度を下げて卵をいれてよく攪拌する。卵はでんぶんと油脂の分散を助け、シュー生地の粘性を調節する。

この攪拌によってシュー生地に空気が抱き込まれ、出来上がったシュー生地の体積は大きくなり、シュー生地の比重は小さくなる。

もし、シュー生地を脱気するとシュー生地はうまく膨化しない。また、攪拌しすぎると膨化は逆に悪くなる。従って適度な攪拌が必要である。これでシュー生地ができる。

これを絞り出してオーブンに入れて加熱する。この温度は200℃で25分間程度である。ほぼ12分後に98度になって生地は膨張しはじめる。さあできた、うまく膨らんだ、とよろこんで扉を開けてはいけない。充分皮が焼けてかたまる前に扉を開けると、たちまちペシャンコに凹んってしまう。加熱の最初は急激に温度を上げて98度とし気泡中に水蒸気を発生させ膨化させるため、あとはその形を固定するためである。

シュー生地の膨化

シュー生地にふくまれる気泡のどれかが膨張して1つの大きな空洞を形成する。シューペーストをガラスのシャーレにいれてオーブンで加熱し、膨化過程における温度の測定、断面の状態の観察を行った研究がある(淵元幸恵ほか)。

ペーストの温度が徐々に上昇するに従って、いくつかの大小の気泡が観察されるようになる。全体の体積はあまり増えない。ペーストの端部のほうが早く温度が上昇するが、中心部付近にはやや大きく膨張した気泡も見られるようになる。この中心部の気泡は、いくつかの気泡が生地の温度が低くまだ流動性のある中心部に集まってきたものである。その気泡が大きな空洞に成長するのかと見ていると、やがてシューペーストの外に押し出されてしまい、シャーレの端の方にあった小さい気泡が突然、他を圧して大きな空洞を形成した。

温度測定結果とあわせると、小さい気泡が98℃になった時点で突然大気泡になったことがわかった。それ以外の気泡は大きくなりながらも98℃よりも温度が低く大気泡には成長しなかった。つまり、いくつかの気泡の中で真っ先に98℃になった気泡の体積が急激に膨張して空洞を形成したことがわかった。オーブンの中で早く98℃になるのは、シューペーストの中心部より端の方であるから、端の方にあった気泡が空洞を形成したのである。膨張は100℃以上においても継続した。

シューライシの気泡分布

気泡の膨張は空気の体積膨張よりは気泡の中に水蒸気が蒸発して体積を広げる影響の方が大きい。20℃から100℃になったときの空気の体積膨張は(373/293)倍程度であるが、水蒸気は水1ミリリットルが1,700ミリリットルにもなるからである。

シューペーストでは、将来大きい空洞を形成するための気泡の数は多くは必要としない。シューペーストのなかの気泡径の分布をみると、200マイクロメートル以上の大きい気泡がシューペースト1cmあたり5~10個程度あればよい。

大きい気泡が50個以上あったり、また、少なすぎたりするとうまく膨化しない。また、200マイクロメートル以下の小さい気泡の数が少ないのもうまく膨化せず、例えば膨化の良いシューペーストでは30マイクロメートルの気泡の数はシューペースト1cmあたり200個以上必要で、それより少ないと膨化が悪かった(淵本幸恵ほか)。

シューの作り方の本をみると、水とバターを加熱して、小麦粉を加え、小麦粉が餅のようにふわっとしてきたら、あるいは、卵は1度に加えず1個ずつ加え、など、また、しゃもじでまぜて、生地がしゃもじからひらひらと落ちるまで、等と書かれているのは、このような温度や搅拌程度、さらには気泡分布の調整などを言葉で説明しているものである。

シューライシにおける小麦粉の成分の役割

シューライシの小麦粉成分の役割について、かつて卒業研究の学生が小麦粉をグルテン、でんぶん、テーリング、水溶性画分にわけてシューの膨張(状態)を検討した。でんぶんのみ、でんぶん+グルテンでは加熱中に油脂が分離して空洞が形成されなかったが、これにテーリングあるいは水溶性画分を加えると、生地は均一になり空洞状に膨化した。このことから、テーリングにはでんぶんと油脂を均一に分散させる乳化剤的な効果があると考え、でんぶんにテーリングの代わりに台所用中性洗剤を入れたところ空洞状に膨化してシューが成功した(濱田陽子ほか)。このすばらしい発想の持ち主で勇気ある学生は、いまでは3人の孫がいる短大の先生である。なお、混合方法を工夫してでんぶんのみでシューライシを作る方法が現在検討されている。

(和洋女子大学教授 お茶の水女子大学名誉教授)

業務日誌

業務

平成23年2月の構造改善事業審査結果

前回から2月までに事業を完了したもの、およびこの間に提出された事業計画の審査を完了したものは次のとおりである。

① 完了報告関係(助成金交付額決定)

..... 0件

② 計画書関係(助成対象とする内示)

..... 0件

構造改善事業等助成実施状況調（45事業年度）（平成23年2月現在）

| 区分 項目 | 助成金交付額 | |
|-----------------|--------|-------|
| | 件数 | 金額 |
| 構造改善事業 | | 千円 |
| 転 廃 業 助 成 | 一 | 一 |
| 製品の物流合理化施設助成 | 一 | 一 |
| 安全・品質管理施設助成 | 14 | 2,793 |
| 安全・品質管理の認証取得等助成 | 1 | 500 |
| 計 | 15 | 3,293 |

調査広報

★平成23年2月17日 = 「製粉振興」2月号の編集委員会を開催した。

業界ニュース

★平成22年度全国麦作共励会中央表彰式の開催

全国農業協同組合中央会、社団法人全国米麦改良協会の主催による平成22年度全国麦作共励会中央表彰式が、2月9日(水)「ホテルルポール麹町」において開催されました。この共励会は、国内産麦の生産性や品質の向上、あるいは流通

の合理化を推進する観点から、生産技術の向上、経営の改善の面から創意、工夫を重ね、先進的で他の模範となる麦作農家及び麦作集団を表彰し、その業績を広く紹介するものです。

なお、各賞の受賞者は、次のとおりです。

【東京・熊田】

平成22年度全国麦作共励会受賞者名簿

I. 農家の部

| 賞 名 | 氏 名 | 住 所 |
|----------------|-------|-----------------------------------|
| 農林水産大臣賞 | 大川 泰範 | 愛媛県伊予郡松前町北川原357 (中国四国ブロック) |
| 全国米麦改良協会会長賞 | 徳永 幸雄 | 佐賀県佐賀市諸富町大字徳富1753 (九州ブロック) |
| 全国農業協同組合中央会会長賞 | 三谷 吉一 | 北海道滝川市江部乙町東18丁目 (北海道ブロック) |
| 全国農業協同組合連合会会長賞 | 田中 茂隆 | 三重県いなべ市員弁町畑新田570-1 (東海・近畿ブロック) |
| 日本農業新聞賞 | 橋本 哲郎 | 福井県あわら市田中々33-9-1 (東北・北陸ブロック) |

II. 集団の部

| 賞 名 | 集 団 名 | 所 在 地 |
|----------------|----------------------------|---------------------------------|
| 農林水産大臣賞 | 実取近代化営農集団 代表者 森 修一 | 栃木県大田原市実取1071 (関東ブロック) |
| 全国米麦改良協会会長賞 | 徳丸生産組合 代表者 渡部 伸 | 愛媛県伊予郡松前町徳丸628-2 (中国四国ブロック) |
| 全国農業協同組合中央会会長賞 | 有限会社 FAかみいちば 代表者 河合 馨 | 岐阜県郡上市美並町白山369 (東海・近畿ブロック) |
| 全国農業協同組合連合会会長賞 | 農事組合法人 山吹営農組合 代表者 一丸 晋一 | 大分県国東市国東町原1844 (九州ブロック) |
| 日本農業新聞賞 | 営農組合 ひばり野ファーム 代表者 小森 米二 | 富山県黒部市宇奈月町愛本新403 (東北・北陸ブロック) |

業界ニュース

★2010／11年度産豪州産小麦品質説明会開催される

2月1日(火)、東京日本橋の製粉会館でシー・ビー・エイチ・グレイン社主催の「2010／11年度産豪州産小麦品質説明会」が開催され、日本国内の製粉企業関係者ら約100名が集った。CBHグループ全体の紹介(DVD)後、CBH 東京事務所の軽部氏から補足説明、世界の小麦の状況(需要・供給)及び今年のオーストラリアの状況の話。また来日中のCBH本社マグワイヤーさんから小麦の生育状況、生産見通し、ムーア博士からプライムハード・ASW小麦の品質状況について詳細な説明があった。

2010年のオーストラリアは、すでにマスコミ等で報道されている通り、東部は水害、西部は旱魃と言う異常気象に見舞われた。小麦生産量そのものは、オーストラリア全体で24.5百万tと昨年及び過去5年平均を上回る結果となった。これは収穫前までの順調な気象条件に恵まれた東部諸州での生産量が増加したことによるもので、西部(西オーストラリア州)では平年の約半分、4.4百万tに留まった。

品質は、東部で生産されるプライムハードについて洪水中の影響で、まだ充分なサンプル数が集まっているないが、その全貌は明らかではないが、この異常気象(ウェット)の影響を受け、小麦の水分・容積重は上昇、粗蛋白は低下、更には飼料小麦へのダウングレードやアミロ粘度の低下なども懸念されている。西オーストラリア州で生産されるASWの品質についても、ホットな気象条件(旱魃)の影響を受け、小麦の蛋白・スクリーニングは上昇、容積重は昨年より上がるが一昨年よりは低く、千粒重は低下して

いる。テストミル粉の性状も蛋白の上昇、ファリノ吸水の増加、粉の色調に関しては明度(白色度)はあまり変わらないものの黄色味(黄色度)は強くなる傾向が見られるとのこと。

最後に今年のオーストラリアの小麦産業に関するトピックス(2つ)と今年の作柄予想が紹介された。トピックスのひとつは本年1月に「ウイート クオリティ オーストラリア社」が設立され、従来の「小麦分類・格付会議」が行っていた役割を担うことになった事、もうひとつは「APWN」という新しい種類が今年の受け入れから採用されている事。

(これは従来のAPWの中で麵用としての適性が高いものを更に分別し、アジアのめん市場の要望に応えて行こうとするもの)また今年の生育予想として気象状況は現在の所、東部は平年並み、西部は平年よりやや多い降雨量が予想されており、来年は今年より良い情報を持って来たいと説明会を締め括った。

【東京・廣橋】



世界 (1) 2010/11年度の小麦
は消費が生産を1,310万トン上回り、主要輸出国の期末在庫が減る。

国際穀物理事会(IGC)の世界と主要生産国的小麦需給予測を[表1]に、国別小麦生産量を[表2]に示した。2010年の総生産量は6億4,740万トンで、前年より3,060万トン(4.5%)少ない。CIS諸国は旱魃による大幅減産で、雨不足はヨーロッパの一部や北アフリカにも及んだ。カナダも前年比360万トン減の2,320万トンである。アルゼンチン、オーストラリア、イランでは増産が予想されるが、アメリカは6,010万トン、中国は1億1,500万トン、インドは8,070万トンで、いずれも前年並みである。2010/11年度の食用消費は前年度比330万トン増の4億5,550万トン、飼料用は550万トン増の1億1,530万トン、工業用は120万トン増の2,070万トンで、総消費は1,030万トン増の6億6,050万トンである。期末在庫は少し減って1億8,480万トンになり、貿易量は470万トン減の1億2,270万トンである。CIS3国を含む主要輸出国の合計期末在庫は1,710万トン減の5,510万トンである。主要輸出国以外の期末在庫は、中国が5,890万トン、インドが1,790万トンで、いずれも少し増加する。

(IGC-GMR・407/11)

(2) 2010年の穀物関連食品会社の株価動向は企業間の差が大きい。

2010年末の大手穀物関連食品会社(北米以外)の株価は[表3]のようだ、41社中24社が上昇し、17社が下落した。Associated British Foods社は営業利益が前年比31%増の8.19億ポンドで、売上高が初めて100億ポンドを超える、株価は44%上昇した。製粉と食品製造のNorthern Foods社は6%下落したが、Greencore Groupとの合併が11月に合意に達し、年商170億ポンドのEssenta Foodsになる。Carr's製粉は農業ビジネスを強化し、49%上昇した。イギリス最大の食品会社のPremier Foods社は46%下落した。ケーキ、パン及びグルテンフリーべーカリー製品のメーカーのFinsbury Food Groupは9%上昇した。Genius Foods社との合弁契約で、グルテンフリー製品を強化する。オーストラリアのGrain Corp社は6%上昇したが、Goodman Fielder社は17%下落した。Agrium社に買収されたAWB社は12月10日にリストから外れた。Groupe DanoneはChiquita Brands International社と合弁を結び、アメリカの冷凍ヨーグルトメーカーを買収するなどで、10%上昇した。Nestle社も17%上昇し、Indofood社は前年の282%上昇に続いて37%上昇した。

(MBN・89-23/11)



アメリカ (1) 2009年の小麦
粉生産量は前年比0.6%減、1人当たり消費量も0.7キログラム減。粉歩留りは過去最高の77.1%に。

[表4]は合衆国農務省発表の小麦粉需給である。2009年の小麦粉生産量は前年比0.4%減の1,881万トン、国内消費量も0.5%減の1,877万トンである。小麦粉・加工品の輸入は47万トンで微減、小麦粉の輸出は27万トンで微増、加工品

の輸出は24万トンで前年より少ない。年1人当たりの小麦粉消費量は2007年まで回復傾向だったが、その後は2年連続で減少し、2009年は前年より0.8キログラム減の61.1キログラムである。[表5]は製粉実績である。粉歩留りが過去最高の77.1%に上昇し、小麦挽碎量は前年比1.3%減の2,439万トン、ふすま生産量は4.3%減の646万トンだった。

(Grain & Milling Annual 2011)

(2) 2010年に製粉工場は1工場減ったが、全製粉能力は905トン増。ADM製粉が能力でトップに。

[表6]は2011年初の州別普通小麦製粉工場数と製粉能力、[表7]はデュラム小麦製粉工場のそれである。普通小麦製粉工場数はカンザス州で1工場減の168だが、デュラム小麦製粉工場数は変化がない。小麦粉日産能力は普通小麦製粉工場が668トン増の67,239トン、デュラム小麦製粉工場は37トン増の6,448トンである。普通小麦製粉工場で日産能力が100トン以上増えたのはインディアナ、アイオワ、モンタナ、ノースダコタ、及びペンシルベニアの各州で、8州で微増し、ミズーリ州で54トン減少した。デュラム小麦製粉工場はノースダコタとバージニア両州で能力が少し増え、カリフォルニア州で少し減った。主要製粉会社の能力と工場数を[表8]に示した。ADM製粉が1工場増の24工場、小麦粉日産能力も653トン増の13,522トンになり、1位に躍り出た。Horizon製粉は1工場減の20工場になり、能力も386減の13,177トンで2位に転落した。3位のConAgra Foods社は変化がない。4位のCereal Food Processors社は10工場のままで能力を前年に続いて116トン増やした。5位のBay State製粉は変化がないが、6位のGeneral Mills社は6工場のままで、普通小麦粉生産能力

を235トン増、デュラムの能力を45トン減らし、全体では190トン増えた。7位のMennel製粉は変化がない。能力を204トン増やしたMiller製粉が11位から9位に上がり、86トン減のNorth Dakota Mill & Elevator社が10位から11位に落ちた。大手3社の合計能力の全米での比率は微減の51.4%、上位24社は0.1%増の94.2%である。上位24社のシェアは、小麦粉が95.6%、デュラム製品が83.0%、ライ麦製品が48.5%である。[表9]は工場の規模別順位である。North Dakota Mill & Elevator社の工場は能力を減らして1,497トンになったが依然として最大の製粉工場である。2位のオハイオ州ToredosのKraft Foods社は1,406トンで変化がない。General Mills社のミズーリ州Kansas City工場とHorizon製粉のカンザス州Wichita工場が共に1,225トンで3位である。[表10]は普通小麦製粉工場の規模別分布である。日産能力454トン以上が2工場増えて70になり、能力シェアも0.3%増の73.4%になった。227～453トンの工場は2増の46になり、227トン以上の総能力は0.8%増の94.4%になった。

(Grain & Milling Annual 2011)

(3) クッキーは回復の兆しか。

シカゴの市場調査会社のSymphonyIRIグループによると、2010年8月8日までの52週間におけるクッキー上位5ブランドの売上高と販売個数は[表11]のようである。業界トップのKraft Foods社のNabisco部門のこの52週間の売上高は1%の伸び、販売個数は2%の伸びだった。トップブランドのChips Ahoy!は売上高が1.2%減、販売個数が0.3%減で、その他にも売上高が低下したブランドが多いが、2位ブランドのOreoは売上高で11.4%、販売個数で12.1%伸びた。業界2位のKellogg社のKeebler部門の売上高は5%減、販売個数の減少は1%未満だった。3位

はPeperidge Farmで、売上高で4%、販売個数で1%の減である。

(MBN・89-14／10)

(4) 2010年12月の小麦生産者手取り価格はブッシェル当たり7.05に上昇。

合衆国農務省発表の2010年12月の全小麦平均生産者手取り価格は7.05ドル／ブッシェルで、11月の6.13ドルに比べて92セント上昇した。前年同月比は4.87ドルの大幅高である。冬小麦は6.85ドル(前月比85セント高、前年同月比2.17ドル高)、デュラム小麦は6.83ドル(前月比79セント高、前年同月比1.92ドル高)、デュラム小麦を除く春小麦は7.38ドル(前月比1.02ドル高、前年同月比2.20ドル高)である。

(World-Grain.com・January 4／11)

(5) 2010年11月の全粒粉パン価格は高騰したが、白パン価格は下落。

合衆国労働省によると、2010年11月の型焼き白パン平均小売価格は1ポンド(約454グラム)当たり137.5セントで、前月比で3.2セント下落したが、前年同月比は0.2セント高である。小麦全粒粉パンは188.4セントで、前月比14.1セントの上昇で、前年同月比も7.5セント高であり、2009年10月以降の最高値である。11月の家庭用小麦粉の平均価格は1ポンド(453.6グラム)当たり44.6セントで、前月比2.6セント安、前年同月比でも1.2セント安であり、3か月連続の下落である。パスタは1ポンド当たり114.1セントで、前月比1.2セント安、前年同月比5.2セント安である。

(MBN・89-22／10)

(6) ホライズン製粉がトペカ工場を閉鎖。

業界第2位のHorizon製粉(カーギル社とCHSの合弁会社)は、カンザス州Topeka工場を閉鎖

する。1882年建設の古い工場で、小麦粉日産能力は386トンである。かなりの投資をしない効率が悪いので、閉鎖に踏み切った。2010年12月に製造を止め、得意先には同州の他の2工場から出荷。

(MBN・89-22／10)

(7) 2010年末の穀物が主原料の食品会社の株価指数は前年末比9.0%上昇。

[表12]のように穀物が主原料の大手食品会社の2010年末の株価指数(資本金で加重平均)は11,278.36で、前年末比9.0%上昇した。前年の13.2%に続く2年連続の上昇で、2008年の大幅下落をほぼ回復した。2010年末のダウ・ジョーンズ平均の年初比11%上昇、ナスダックの17%上昇に比べると上昇幅は小さい。[表13]は会社別株価動向で、22社中18社が前年を上回り、4社が下回った。American Italian Pasta Co.はRalcorp Holdings, Inc.に買収されたので、リストから外れた。上昇率上位10社中6社が前年も上位10社に入っていた。Krispy Kreme Doughnuts, Inc.は収益上昇が評価されて前年末の2.95ドルから4.03ドル、率で136.6%上昇した。2位はHain Celestial Group, Inc.で、2009年はマイナスだったが、59.1%上昇した。経営陣を強化し、有機及び自然食品と消費者向け包装製品が好調だった。3位のCorn Products社(前年は1%上昇)は59.1%上昇した。National Starch社を13億ドルで買収し、ポートフォリオの大幅拡大が株価上昇につながった。製粉が中核の食品会社のConAgra社は2.0%の下落、Archer Daniels Midland社も3.9%の下落だった。

(MBN・89-23／11)



アルジェリア 製粉用小麦の供給量を18%増加。

政府は1月9日から8月31日まで、国内の製粉業者に供給する小麦の量を18%増やして、月に43万トンにする。食品価格高騰への対策である。

(IGC-GMR・407/11)



インドネシア (1) 2大製粉会社が中心だが、不況で小麦粉の消費が伸びない。

製粉工場数は1998年の5から2009年の10に増えた。産業全体の製粉能力は年に920万トンである。Indofood Sukses Makmur社の一部門のBogasari製粉が最大で、年間製粉能力は産業全体の半分に近い440万トンである。2位は74万トンのSriboga Raturay社である。ボガサリ製粉はジャカルタとスラバヤに工場があり、それぞれの1日の挽碎能力は10,000トンと5,900トンである。2.4億人のこの国的主要農産物は米とヤシ油で、米の生産量は徐々に増加して約3,800万トンである。トウモロコシも約800万トン生産されるが、小麦はほぼ全量輸入する。輸入量は数年前より少し増えて550万トンになったが、不況の影響か2008/09年度以降増えていない。製粉能力の6割くらいしか活用されていない。

(WG・28-11/10)

(2) 小麦の輸入関税を一時的に撤廃。

政府は1月10日から、小麦の輸入関税を一時的に撤廃した。米と大豆にも同様の措置が行われ、食料の供給量確保と価格安定を目指す。

(IGC-GMR・407/11)



オーストラリア (1) 小麦品種管理を行う非営利会社を設立。

穀物研究開発法人(GRDC)とGrain Trade Australia(GTA)は、Wheat Quality Australia(WQA)社を設立し、2011年1月1日から活動を開始する。主に小麦品種の分類・格付けを行う。以前はAWB International社が行い、自由化後はGRDCが一時的に担当していたが、国際市場での品質の重要性から専門の会社で行うこととした。関連産業とGRDCからの資金で運営する非営利会社である。

(World-Grain.com・January 4/11)

(2) 西オーストラリア州が遺伝子組換え小麦の研究を開始。

西オーストラリア州の農業・食料・林業省長官は2010年12月6日に、遺伝子組換え小麦品種の開発を目的とした研究を開始すると発表した。

(IGC-GMR・407/11)



カナダ 2010年には製粉工場数の変化がなく、製粉能力は68トン増加。

[表14]と[表15]は普通小麦製粉工場とデュラム小麦製粉工場の州別工場数と製品日産能力である。普通小麦製粉工場は23工場のままで、能力はブリティッシュ・コロンビア州で178トン増、オンタリオ州で151トン減で、合計で27トン増の8,772トンである。デュラム製粉工場はオンタリオ州で41トン増えた。規模別上位9工場を[表16]に示した。Horizon製粉のサスカトゥーン工場(小麦粉日産能力975トン)が最大で、ADM製粉のモントリオール工場が(948トン)が2位、Horizon製粉のモントリオール工場(748トン)が3位である。

(Grain & Milling Annual 2011)



サウジアラビア (1) 製粉工場を民営化。

サウジアラビア国営サイロ・製粉機構(GSFMO)は、傘下11の製粉工場を民営化し、4会社に編成すると発表した。しかし、時期については言及していない。1970年代から小麦自給自足政策を進めていたが、地下水枯渇が懸念されるので2008年から方針転換して、不足分を輸入し始めた。そのため、各社が港にアクセスできるよう配慮する。民営化後も、小麦輸入と製粉会社への販売はGSFMOが行う。

(WG・28-12/10)

(2) 3年以内に小麦在庫量を倍増。

政府は1月11日付けで、3年以内に国内の小麦在庫量を現在の2倍にすると発表した。増加を続ける人口への十分な供給量を確保するためで、現在の252万トンのサイロに55万トンの貯蔵設備を増加する。

(IGC-GMR・407/11)



スペイン 製粉業界は消費低迷下で整理統合が進む。

スペイン小麦粉・セモリナ製造業協会(AFHSE)によると、2009年末の製粉工場数は156である。小規模な家族経営の製粉所が多く、長期間にわたり整理統合が続いている。1980年に619工場、1990年に499工場、2000年に249工場に減少した。協力関係を模索している企業も多く、整理統合はさらに進むと見られる。業界が年に必要な小麦の量は950～1,050万トンで、Harinera Vilafranquina(1日の挽碎能力が4,100トン)、La Meta、及びGrupo Reganyの3社が全小麦粉の60～70%を製造する。国内産小麦生産量は480～670万トンと変動が大きく、毎年約100万トンの小麦をイギリスのほか、フランス

とドイツからも輸入する。以前は、その日に残ったパンは捨てていたが、景気後退で廃棄量が減り、パンの消費は下降している。

(WG・28-12/10)



パキスタン 小麦輸出禁止令を解除。

政府は2010年12月7日付けで、3年間の小麦輸出禁止令を解除した。民間業者に約100万トンの小麦を輸出させるのが目的である。

(IGC-GMR・407/11)



フィリピン 小麦輸入関税を6か月間停止。

政府は1月13日付けで、3%の小麦輸入関税を6か月間停止すると発表した。国際価格の高騰による影響を和らげるためである。

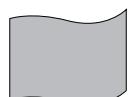
(IGC-GMR・407/11)



モロッコ 小麦輸入価格の高騰に補償金。

政府は1月1日付けで、輸入業者が普通小麦を1トン当たり2,600ディルハム(303.50米ドル)以上で輸入した場合に、差額を補償金として請求できる制度を作った。ただし輸入価格がこのレベルを下回った場合には相当額を返済しなければならない。この制度は4月15日までの予定。

(IGC-GMR・407/11)



リビア 小麦製品の税と関税を撤廃。

1月12日付けの新聞報道によると、政府は小麦製品を含む国内産及び輸入食品への税と関税を撤廃した。価格上昇への対策である。

(IGC-GMR・407/11)

[表1] 世界及び主要小麦輸出国の小麦需給

(百万トン)

| | 期初 在庫 | 生産 | 輸入 b) | 供給計 | 消費 | | | | 輸出 b) | 期末 在庫 |
|-----------------|----------|-------|----------|-------|------|------|------|-------|----------|----------|
| | | | | | 食用 | 工業用 | 飼料用 | 計 a) | | |
| アルゼンチン(12月／11月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 4.0 | 8.4 | 0.0 | 12.4 | 3.4 | 0.1 | 0.1 | 3.9 | 6.8 | 1.7 |
| 2009/10 推定 | 1.7 | 8.0 | 0.0 | 9.7 | 3.3 | 0.1 | 0.1 | 3.8 | 5.3 | 0.6 |
| 2010/11 予測 | 0.6 | 14.0 | 0.0 | 14.6 | 3.4 | 0.1 | 0.1 | 4.0 | 8.8 | 1.9 |
| オーストラリア(10月／9月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 4.2 | 21.4 | 0.0 | 25.7 | 2.3 | 0.4 | 3.9 | 7.3 | 14.8 | 3.6 |
| 2009/10 推定 | 3.6 | 21.9 | 0.0 | 25.5 | 2.1 | 0.4 | 3.1 | 6.3 | 14.8 | 4.5 |
| 2010/11 予測 | 4.5 | 25.0 | 0.0 | 29.5 | 2.2 | 0.5 | 4.5 | 7.9 | 14.5 | 7.1 |
| カナダ(8月／7月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 4.4 | 28.6 | 0.0 | 33.0 | 3.0 | 0.4 | 3.5 | 7.8 | 18.7 | 6.5 |
| 2009/10 推定 | 6.5 | 26.8 | 0.1 | 33.4 | 2.9 | 0.5 | 3.3 | 7.6 | 18.1 | 7.8 |
| 2010/11 予測 | 7.8 | 23.2 | 0.1 | 31.0 | 3.0 | 0.6 | 3.5 | 8.0 | 17.4 | 5.6 |
| EU-27(7月／6月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 10.3 | 151.2 | 7.6 | 169.1 | 54.0 | 9.4 | 52.0 | 123.5 | 25.9 | 19.7 |
| 2009/10 推定 | 19.7 | 138.7 | 5.1 | 163.6 | 54.0 | 10.6 | 53.2 | 126.4 | 22.2 | 15.0 |
| 2010/11 予測 | 15.0 | 135.5 | 4.9 | 155.3 | 54.0 | 11.8 | 49.0 | 122.9 | 22.7 | 9.7 |
| カザフスタン7(7月／6月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 2.3 | 13.0 | 0.1 | 15.4 | 2.6 | 0.1 | 1.7 | 7.5 | 5.8 | 2.2 |
| 2009/10 推定 | 2.2 | 16.5 | 0.1 | 18.7 | 2.6 | 0.1 | 1.8 | 7.3 | 8.0 | 3.4 |
| 2010/11 予測 | 3.4 | 10.0 | 0.1 | 13.5 | 2.2 | 0.1 | 1.6 | 6.5 | 5.5 | 1.5 |
| ロシア(7月／6月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 4.2 | 63.8 | 0.1 | 68.1 | 16.8 | 0.4 | 15.0 | 39.5 | 18.3 | 10.4 |
| 2009/10 推定 | 10.4 | 61.7 | 0.1 | 72.2 | 16.7 | 0.4 | 18.0 | 41.6 | 18.8 | 11.8 |
| 2010/11 予測 | 11.8 | 41.5 | 2.0 | 55.3 | 16.7 | 0.3 | 23.9 | 47.4 | 4.0 | 3.9 |
| ウクライナ(7月／6月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 2.2 | 25.9 | 0.1 | 28.1 | 6.8 | 0.2 | 2.5 | 12.1 | 12.9 | 3.0 |
| 2009/10 推定 | 3.0 | 20.9 | 0.0 | 23.9 | 6.8 | 0.2 | 2.7 | 12.1 | 9.3 | 2.5 |
| 2010/11 予測 | 2.5 | 17.2 | 0.1 | 19.8 | 6.8 | 0.2 | 3.0 | 12.7 | 4.0 | 3.2 |
| アメリカ(6月／5月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 8.3 | 68.0 | 3.5 | 79.7 | 24.5 | 0.7 | 6.9 | 34.3 | 27.6 | 17.9 |
| 2009/10 推定 | 17.9 | 60.4 | 3.2 | 81.5 | 24.4 | 0.6 | 4.1 | 30.9 | 24.0 | 26.6 |
| 2010/11 予測 | 26.6 | 60.1 | 3.0 | 89.7 | 24.8 | 0.6 | 4.6 | 32.0 | 35.4 | 22.3 |

| | 期初 在庫 | 生産 | 輸入 b) | 供給計 | 消費 | | | | 輸出 b) | 期末 在庫 |
|------------|----------|-------|----------|-------|-------|------|-------|-------|----------|----------|
| | | | | | 食用 | 工業用 | 飼料用 | 計 a) | | |
| 主要輸出国計 | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 39.9 | 380.3 | 11.4 | 431.5 | 113.4 | 11.6 | 85.5 | 235.7 | 130.8 | 65.0 |
| 2009/10 推定 | 65.0 | 355.0 | 8.6 | 428.5 | 112.8 | 12.7 | 86.2 | 235.9 | 120.4 | 72.2 |
| 2010/11 予測 | 72.2 | 326.4 | 10.1 | 408.8 | 113.0 | 14.0 | 90.2 | 241.4 | 112.3 | 55.1 |
| 中 国(7月／6月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 36.3 | 112.5 | 0.5 | 149.4 | 90.0 | 3.0 | 5.0 | 104.6 | 0.2 | 44.5 |
| 2009/10 推定 | 44.5 | 115.1 | 1.4 | 161.1 | 89.0 | 3.0 | 7.0 | 105.5 | 0.4 | 55.1 |
| 2010/11 予測 | 55.1 | 115.0 | 1.0 | 171.1 | 89.0 | 3.1 | 11.0 | 111.0 | 1.3 | 58.9 |
| 印度(4月／3月) | | | | | | | | | | |
| 2008/09 | 7.1 | 78.6 | 0.0 | 85.7 | 65.0 | 0.2 | 0.1 | 72.6 | 0.0 | 13.1 |
| 2009/10 推定 | 13.1 | 80.7 | 0.3 | 94.1 | 68.0 | 0.2 | 0.3 | 76.5 | 0.0 | 17.6 |
| 2010/11 予測 | 17.6 | 80.7 | 0.3 | 98.6 | 71.0 | 0.2 | 0.3 | 79.7 | 1.0 | 17.9 |
| 世界計 | | | c) | | | | | a) | c) | |
| 2008/09 | 121.7 | 686.1 | 136.2 | 807.8 | 447.3 | 18.3 | 105.9 | 637.7 | 136.2 | 170.1 |
| 2009/10 推定 | 170.1 | 678.0 | 127.4 | 848.1 | 452.2 | 19.5 | 109.8 | 650.2 | 127.4 | 198.0 |
| 2010/11 予測 | 198.0 | 647.4 | 122.7 | 845.4 | 455.5 | 20.7 | 115.3 | 660.5 | 122.7 | 184.8 |

a) 種子用および廃棄分を含む、b) 製粉製品の推定輸出量を含む、c) IGC 7月／6月データ：製粉製品の貿易を含まない。

(2011年1月20日現在)

(IGC)

[表2] 世界の小麦生産量

(百万トン)

| 地区・国名 | | 2007 | 2008 | 2009(推定) | 2010(予測) | |
|---------|--------|--------|-------|----------|----------|--|
| ヨーロッパ | EU-27 | ブルガリア | 2.3 | 4.4 | 4.0 | |
| | | チェコ | 4.0 | 4.7 | 4.4 | |
| | | デンマーク | 4.5 | 5.0 | 6.0 | |
| | | フランス | 32.8 | 39.5 | 38.3 | |
| | | ドイツ | 20.8 | 26.0 | 25.1 | |
| | | ハンガリー | 4.0 | 5.7 | 4.4 | |
| | | ギリシャ | 1.1 | 1.7 | 1.7 | |
| | | イタリア | 7.3 | 9.0 | 7.0 | |
| | | ポーランド | 8.3 | 9.3 | 9.8 | |
| | | ルーマニア | 2.9 | 7.8 | 4.8 | |
| | | スロバキア | 1.5 | 1.8 | 1.5 | |
| | | スペイン | 6.3 | 6.7 | 4.8 | |
| | | スウェーデン | 2.3 | 2.2 | 2.3 | |
| | | イギリス | 13.1 | 17.3 | 14.4 | |
| | | その他 | 8.5 | 10.2 | 10.3 | |
| 計 | | 119.7 | 151.2 | 138.7 | 135.5 | |
| セルビア | | 2.0 | 2.1 | 2.1 | 1.7 | |
| その他 | | 2.5 | 2.8 | 2.5 | 2.4 | |
| 計 | | 124.2 | 156.1 | 143.4 | 139.5 | |
| CIS | カザフスタン | 16.5 | 13.0 | 16.5 | 10.0 | |
| | ロシア | 49.4 | 63.8 | 61.7 | 41.5 | |
| | ウクライナ | 13.9 | 25.9 | 20.9 | 17.2 | |
| | その他 | 13.9 | 14.7 | 14.5 | 14.9 | |
| | 計 | 93.6 | 117.3 | 113.6 | 83.6 | |
| 北・中アメリカ | カナダ | 20.1 | 28.6 | 26.8 | 23.2 | |
| | メキシコ | 3.5 | 4.0 | 4.3 | 4.0 | |
| | アメリカ | 55.8 | 68.0 | 60.4 | 60.1 | |
| | その他 | T | T | T | T | |
| | 計 | 79.4 | 100.6 | 91.5 | 87.3 | |
| 南アメリカ | アルゼンチン | 16.4 | 8.4 | 8.0 | 14.0 | |
| | ブラジル | 3.8 | 6.0 | 4.9 | 5.6 | |
| | チリ | 1.1 | 1.2 | 1.1 | 1.5 | |
| | ウルグアイ | 0.8 | 0.7 | 1.7 | 1.2 | |
| | その他 | 1.0 | 0.9 | 1.2 | 1.4 | |
| | 計 | 23.1 | 17.3 | 17.0 | 23.7 | |

| 地区・国名 | | 2007 | 2008 | 2009(推定) | 2010(予測) | |
|-------|---------|---|---|---|---|---|
| 近東アジア | イラン | 15.0 | 10.0 | 12.0 | 14.4 | |
| | サウジアラビア | 2.6 | 1.8 | 1.0 | 0.5 | |
| | シリア | 4.1 | 2.1 | 4.0 | 3.6 | |
| | トルコ | 15.5 | 17.0 | 18.5 | 17.5 | |
| | その他 | 2.7 | 1.6 | 1.9 | 2.4 | |
| | 計 | 39.9 | 32.5 | 37.3 | 38.5 | |
| 極東アジア | 太平洋 | 109.3 | 112.5 | 115.1 | 115.0 | |
| | その他 | 1.3 | 1.4 | 1.1 | 1.4 | |
| | 計 | 110.6 | 113.9 | 116.2 | 116.4 | |
| | 南アジア | アフガニスタン インド パキスタン その他 計 | 4.5 75.8 23.3 2.1 105.7 | 3.5 78.6 21.5 2.3 105.9 | 4.1 80.7 24.0 2.2 111.1 | 3.7 80.7 23.9 2.1 110.4 |
| | 計 | 216.3 | 219.8 | 227.3 | 226.8 | |
| | 北アフリカ | アルジェリア エジプト リビア モロッコ チュニジア 計 | 2.8 7.4 0.1 1.6 1.5 13.4 | 1.3 8.0 0.1 3.7 1.6 14.7 | 3.6 8.5 0.1 6.4 1.6 20.2 | 3.0 8.5 0.1 4.9 0.8 17.3 |
| アフリカ | サハラ以南 | エチオピア 南アフリカ その他 計 | 1.9 1.9 1.6 5.4 | 2.5 2.1 1.4 6.0 | 2.2 2.0 1.3 5.4 | 2.3 1.6 1.3 5.2 |
| | 計 | 18.8 | 20.7 | 25.6 | 22.6 | |
| オセアニア | オーストラリア | 13.6 | 21.4 | 21.9 | 25.0 | |
| | 計 | 13.9 | 21.8 | 22.3 | 25.3 | |
| 世界 計 | | 609.1 | 686.1 | 678.0 | 647.4 | |

(2011年1月20日現在) Tは5万トン以下

(IGC)

[表3] 北米以外の穀物が主原料の食品会社の株価動向(2010年末)

| 会社名 | 本社所在国 | 株価終値 | 通貨単位 | 前年末比% |
|----------------------------------|---------|--------|-----------|-------|
| Marks & Spencer | イギリス | 369 | ポンド | -8 |
| Premier Foods | イギリス | 19.28 | ポンド | -46 |
| Greggs P.L.C. | イギリス | 465 | ポンド | 7 |
| Tesco | イギリス | 425 | ポンド | -1 |
| Northern Foods P.L.C. | イギリス | 62.75 | ポンド | -6 |
| Associated British Foods | イギリス | 1,181 | ポンド | 44 |
| Tate & Lyle P.L.C. | イギリス | 518 | ポンド | 20 |
| Carr's Milling Industries P.L.C. | イギリス | 630 | ポンド | 49 |
| Sainsbury P.L.C. | イギリス | | ポンド | 16 |
| Finsbury Food Group P.L.C. | イギリス | 23.50 | ポンド | 9 |
| Kerry Group | アイルランド | 24.97 | ユーロ | 21 |
| Greencore Group P.L.C. | アイルランド | 1.27 | ユーロ | -9 |
| Origin Enterprises | アイルランド | 3.20 | ユーロ | 50 |
| GrainCorp Ltd. | オーストラリア | 6.60 | オーストラリアドル | 6 |
| Goodman Fielder Ltd. | オーストラリア | 1.345 | オーストラリアドル | -17 |
| 第一屋製パン | 日本 | 94 | 円 | -22 |
| 日清製粉グループ本社 | 日本 | 1,031 | 円 | -18 |
| 日清食品グループ | 日本 | 2,910 | 円 | -4 |
| 日本製粉 | 日本 | 402 | 円 | -13 |
| 山崎製パン | 日本 | 979 | 円 | -11 |
| Indofood | インドネシア | 4,875 | ルピア | 37 |
| Flour Mills Nigeria | ナイジェリア | | | 111 |
| Groupe Danone | フランス | 47.02 | ユーロ | 10 |
| Danisco A/S | デンマーク | 510 | デンマーククローネ | 46 |
| Ahold n.v. | オランダ | 9.88 | ユーロ | 7 |
| CSM | オランダ | 26.19 | ユーロ | 42 |
| DSM | オランダ | 42.6 | ユーロ | 23 |
| Unilever | オランダ | 23.80 | ユーロ | 4 |
| Nestle S.A. | スイス | 58.82 | スイスフラン | 17 |
| Aryzta AG | スイス | 43.15 | スイスフラン | 12 |
| Alexandria Flour | エジプト | | | -14 |
| Middle and West Delta Flour Co. | エジプト | | | 13 |
| Middle Egypt Flour | エジプト | | | -4 |
| North Cairo Flour | エジプト | | | -4 |
| South Cairo & Giza Flour Mills | エジプト | | | -14 |
| EgyptianStarch | エジプト | | | -17 |
| Upper Egypt Flour | エジプト | | | -17 |
| Ebro Puleva S.A. | スペイン | 15.83 | ユーロ | 9 |
| Tiger Brands Ltd. | 南アフリカ | 19,363 | ラント | 14 |
| Quinenco | チリ | | | 58 |
| Molinos Rio Plata | アルゼンチン | | | 135 |

(MBN)

[表4] アメリカの小麦粉需給

| 暦年 | 供 給 | | | 需 要 | | | 総人口 (百万人) | 1人当たり 消費量 (kg) |
|------|------------|-----------------------------|--------------|--------------------|---------------------|----------------------|--------------|----------------------|
| | 小麦粉 生産* | 小麦粉・ 製品 輸入** (千トン) | 供給計 (千トン) | 小麦粉 輸出 (千トン) | 製品 輸出** (千トン) | 小麦粉 国内消費 (千トン) | | |
| 2009 | 18,809 | 468 | 19,277 | 268 | 242 | 18,767 | 307.5 | 61.1 |
| 2008 | 18,883 | 491 | 19,373 | 223 | 280 | 18,870 | 304.8 | 61.9 |
| 2007 | 18,998 | 522 | 19,521 | 304 | 294 | 18,922 | 302.0 | 62.6 |
| 2006 | 18,298 | 533 | 18,830 | 155 | 266 | 18,409 | 299.0 | 61.6 |
| 2005 | 17,916 | 511 | 18,427 | 170 | 215 | 18,042 | 296.2 | 60.9 |
| 2004 | 17,868 | 487 | 18,355 | 234 | 211 | 17,910 | 293.5 | 61.0 |
| 2003 | 17,972 | 506 | 18,478 | 262 | 179 | 18,037 | 290.7 | 62.1 |
| 2002 | 17,904 | 512 | 18,416 | 418 | 122 | 17,876 | 288.1 | 62.1 |
| 2001 | 18,349 | 459 | 18,809 | 477 | 77 | 18,255 | 285.3 | 64.0 |
| 2000 | 19,109 | 438 | 19,547 | 726 | 77 | 18,744 | 282.4 | 66.4 |
| 1999 | 18,687 | 422 | 19,109 | 966 | 73 | 18,068 | 279.3 | 65.3 |
| 1998 | 18,095 | 446 | 18,541 | 570 | 61 | 17,909 | 276.1 | 64.9 |
| 1997 | 18,332 | 394 | 18,726 | 501 | 53 | 18,172 | 272.9 | 66.6 |
| 1996 | 18,043 | 389 | 18,432 | 483 | 40 | 17,909 | 269.7 | 66.4 |
| 1995 | 17,631 | 405 | 18,038 | 1,071 | 39 | 16,925 | 266.6 | 63.5 |
| 1994 | 17,805 | 394 | 18,199 | 1,080 | 37 | 17,082 | 263.4 | 64.9 |
| 1993 | 17,573 | 271 | 17,845 | 1,031 | 31 | 16,782 | 260.3 | 64.5 |
| 1992 | 16,821 | 219 | 17,040 | 916 | 36 | 16,088 | 256.9 | 62.6 |
| 1991 | 16,434 | 176 | 16,611 | 890 | 25 | 15,696 | 253.5 | 61.9 |
| 1990 | 16,073 | 157 | 16,230 | 798 | 14 | 15,419 | 250.1 | 61.6 |

注 * 小麦粉、全粒粉、工業用粉、デュラムの粉とファリナの工業生産量

** マカロニ製品の輸出入量を小麦粉換算で示した

(USDA)

[表5] アメリカの製粉実績

| 暦年 | 小麦粉生産量 (千トン) | 小麦挽碎量 (千トン) | ふすま生産量 (千トン) | 粉歩留り (%) |
|------|-----------------|----------------|-----------------|-------------|
| 2009 | 18,809 | 24,387 | 6,460 | 77.1 |
| 2008 | 18,883 | 24,711 | 6,753 | 76.4 |
| 2007 | 18,998 | 25,140 | 7,103 | 75.6 |
| 2006 | 18,298 | 24,345 | 6,916 | 75.2 |
| 2005 | 17,916 | 24,061 | 6,826 | 74.5 |
| 2004 | 17,868 | 23,842 | 6,764 | 74.9 |
| 2003 | 17,972 | 24,200 | 7,029 | 74.3 |
| 2002 | 17,904 | 24,206 | 6,892 | 74.0 |
| 2001 | 18,349 | 24,876 | 7,275 | 73.8 |
| 2000 | 19,109 | 25,715 | 7,375 | 74.3 |
| 1999 | 18,687 | 24,978 | 7,040 | 74.8 |
| 1998 | 18,095 | 24,368 | 6,955 | 74.3 |
| 1997 | 18,332 | 24,109 | 6,886 | 76.0 |
| 1996 | 18,043 | 23,897 | 7,042 | 75.5 |
| 1995 | 17,631 | 23,658 | 7,144 | 74.5 |
| 1994 | 17,805 | 24,078 | 7,186 | 73.9 |
| 1993 | 17,573 | 23,716 | 6,963 | 74.1 |
| 1992 | 16,821 | 22,680 | 6,707 | 74.2 |
| 1991 | 16,434 | 22,016 | 6,436 | 74.6 |
| 1990 | 16,073 | 21,451 | 6,109 | 74.9 |

(USDA)

[表8] アメリカの主要製粉会社の能力と工場数(2011年初)

| No. | 会社名 | 日産能力(トン) | | | | 工場数 | | |
|-------------|-------------------------------------|----------|-------|-------|---------|------|-------|-------|
| | | 小麦粉 | デュラム | ライ麦 | 計 | 小麦粉 | デュラム | ライ麦 |
| 1 | ADM Milling Co. | 13,522 | 0 | 0 | 13,522 | 24 | 0 | 0 |
| 2 | Horizon Milling, LLC | 12,270 | 907 | 0 | 13,177 | 18 | 2 | 0 |
| 3 | ConAgra Flour Milling Co. | 11,390 | — | — | 11,390* | 23** | — | 2 |
| 4 | Cereal Food Processors, Inc. | 4,539 | 0 | 0 | 4,539 | 10 | 0 | 0 |
| 5 | Bay State Milling Co. | 3,679 | 195 | 109 | 3,983 | 6 | 1 | 1 |
| 6 | General Mills, Inc. | 3,515 | 136 | 0 | 3,651 | 5 | 1 | 0 |
| 7 | The Mennel Milling Co. | 1,846 | 0 | 0 | 1,846 | 5 | 0 | 0 |
| 8 | Southeastern Mills, Inc. | 1,769 | 0 | 0 | 1,769 | 3 | 0 | 0 |
| 9 | Miller Milling Co. | 658 | 1,043 | 0 | 1,701 | 2 | 2 | 0 |
| 10 | Bartlett Milling Co. | 1,610 | 0 | 0 | 1,610 | 3 | 0 | 0 |
| 11 | North Dakota Mill & Elevator Assoc. | 1,361 | 136 | 0 | 1,497 | 1 | 1 | 0 |
| 12 | Kraft Foods | 1,406 | 0 | 0 | 1,406 | 1 | 0 | 0 |
| 13 | Siemer Milling Co. | 1,202 | 0 | 0 | 1,202 | 2 | 0 | 0 |
| 14 | Milner Milling Inc. | 1,125 | | | 1,125 | 3 | 0 | 0 |
| 15 | Star of the West Milling Co. | 1,111 | 0 | 0 | 1,111 | 5 | 0 | 0 |
| 16 | American Italian Pasta Co. | 0 | 953 | 0 | 953 | 0 | 2 | 0 |
| 17 | Minot Milling | 544 | 399 | | 943 | 1 | 1 | 0 |
| 18 | U.S. Durum Milling, Inc. | 0 | 794 | 0 | 794 | 0 | 1 | 0 |
| 19 | Dakota Growers Pasta Co. | 0 | 771 | 0 | 771 | 0 | 1 | 0 |
| 20 | Snaveiy's Mill, Inc. | 631 | | 91 | 721 | 2 | 0 | 1 |
| 21 | Wilkins-Rogers, Inc. | 658 | 0 | 0 | 658 | 3 | 0 | 0 |
| 22 | King Milling Co. | 544 | | | 544 | 1 | 0 | 0 |
| 23 | C.H. Guenther & Son, Inc. | 454 | 0 | 0 | 454 | 2 | 0 | 0 |
| 24 | Shawnee Milling Co. | 454 | 0 | 0 | 454 | 2 | 0 | 0 |
| 上位24社計 | | 64,287 | 5,334 | 200 | 69,821 | 122 | 12 | 4 |
| 全米製粉能力計 | | 67,239 | 6,448 | 412 | 74,099 | 168 | 21 | 12 |
| 上位24社の能力シェア | | 95.6% | 83.0% | 48.5% | 94.2% | 73% | 57.1% | 33.3% |

注 * デュラム製品、ライ麦製品、薄力粉、全粒粉を含む

** デュラム製粉工場を含む

(Grain & Milling Annual 2011)

[表9] アメリカの製粉工場規模別上位20工場(2011年初)

| No. | 会社名 | 所在地 | | 小麦粉日産能力 (トン) |
|-----|-------------------------------------|---------|-------------------|-----------------|
| | | 州 | 市または町 | |
| 1 | North Dakota Mill & Elevator Assn.* | ノースダコタ | Grand Forks | 1,497 |
| 2 | Kraft Foods | オハイオ | Toledo | 1,406 |
| 3 | General Mills, Inc. | ミズーリ | Kansas City | 1,225 |
| 3 | Horizon Milling, LLC | カンザス | Wichita | 1,225 |
| 5 | Bay State Milling Co. | ミネソタ | Winona | 1,093 |
| 6 | ConAgra Foods | ミネソタ | Hastings | 1,089 |
| 7 | ADM Milling Co. | ニューヨーク | Buffalo | 1,075 |
| 8 | Horizon Milling, LLC | ニューヨーク | Albany | 1,066 |
| 9 | Horizon Milling, LLC | テキサス | Saginaw | 1,021 |
| 10 | Horizon Milling, LLC* | ウィスコンシン | Kenosha | 953 |
| 11 | Minot Milling | ノースダコタ | Minot | 943 |
| 12 | Bay State Milling Co.* | アリゾナ | Tolleson | 921 |
| 13 | ADM Milling Co. | ミズーリ | North Kansas City | 907 |
| 14 | ADM Milling Co. | インディアナ | Beech Grove | 880 |
| 15 | ConAgra Foods | イリノイ | Alton | 866 |
| 16 | Miller Milling Co.* | ヴァージニア | Winchester | 862 |
| 17 | Cereal Foods Processors, Inc. | カンザス | Wichita | 839 |
| 17 | ConAgra Foods | ミネソタ | New Prague | 839 |
| 17 | Horizon Milling, LLC | カリフォルニア | San Bernardino | 839 |
| 20 | ADM Milling Co. | ニューヨーク | Hudson | 816 |
| 20 | ConAgra Foods | コロラド | Commerce City | 816 |
| 20 | Horizon Milling, LLC* | ペンシルベニア | Mount Pocono | 816 |
| 20 | The Mennel Milling Co. | オハイオ | Fostoria | 816 |

注*デュラムミルを含む

(Grain & Milling Annual 2011)

[表10] アメリカの普通小麦製粉工場の規模別分布

| 小麦粉日産能力 (トン) | 2011 | | 2010 | |
|-----------------|------|---------------------|------|---------------------|
| | 工場数 | 規模別総小麦粉 日産能力(トン) | 工場数 | 規模別総小麦粉 日産能力(トン) |
| 9未満 | 9 | 43 | 10 | 47 |
| 9~17 | 4 | 58 | 4 | 58 |
| 18~44 | 10 | 251 | 10 | 251 |
| 45~226 | 29 | 3,451 | 33 | 3,891 |
| 227~453 | 46 | 14,151 | 44 | 13,631 |
| 454以上 | 70 | 49,345 | 68 | 48,494 |
| 合計 | 168 | 67,239 | 169 | 66,371 |

注：デュラム製粉工場を除く

(Grain & Milling Annual 2011)

[表11] アメリカのクッキー上位5ブランド

| 順位 | ブランド | 売上高 | | 販売個数 | |
|------------|--------------------------|-------------|--------|-------------|--------|
| | | ドル | 前年比(%) | 個数 | 前年比(%) |
| 1 | Nabisco Chips Ahoy! | 313,683,800 | -1.2 | 111,749,800 | -0.3 |
| 2 | Nabisco Oreo | 290,575,500 | 11.4 | 96,002,380 | 12.1 |
| 3 | Nabisco Oreo Double Stuf | 163,245,800 | -3.0 | 53,481,840 | -1.9 |
| 4 | Lofthouse | 133,309,200 | 0.8 | 37,288,600 | 5.2 |
| 5 | Little Debbie | 112,732,400 | -7.0 | 70,985,440 | -13.3 |
| プライベート・ラベル | | 637,642,900 | 7.8 | 282,733,500 | 9.5 |

(Wal-Martを除く、スーパーマーケット、ドラッグストア、および大量販売店で調査した

2010年8月8日までの52週間のデータ)

(SymphonyIRI group)

[表12] アメリカの穀物が主原料の食品会社の株価指数

| 年 | 株価終値指數 | 前年末比 | |
|------|-----------|--------|-------|
| | | 指數差 | % |
| 2010 | 11,278.36 | 928 | 9.0 |
| 2009 | 10,350.06 | 1,203 | 13.2 |
| 2008 | 9,146.77 | -2,511 | -21.5 |
| 2007 | 11,657.58 | 115 | 1.0 |
| 2006 | 11,542.79 | 1,856 | 19.2 |
| 2005 | 9,687.18 | -1,165 | -10.7 |
| 2004 | 10,852.64 | 1,390 | 14.7 |
| 2003 | 9,462.92 | -487 | -4.9 |
| 2002 | 9,918.02 | 287 | 3.0 |
| 2001 | 9,662.41 | 336 | 3.6 |
| 2000 | 9,326.84 | 2,444 | 35.5 |
| 1999 | 6,882.79 | -2,675 | -28.0 |

(MBN)

[表13] アメリカの穀物が主原料の食品会社の株価動向(2009年)

(ドル)

| 会社名 | 高値 | 安値 | 終値 | 年初比 | |
|------------------|----------|----------|----------|--------|-------|
| | | | | ドル | % |
| Krispy Kreme | 8.14 | 2.56 | 6.98 | 4.03 | 136.6 |
| Hain Celestial | 28.49 | 14.45 | 27.06 | 10.05 | 59.1 |
| Corn Products | 48.00 | 26.23 | 46.00 | 16.77 | 57.4 |
| Panera Bread Co | 106.87 | 64.89 | 101.21 | 34.27 | 51.2 |
| Seaboard | 2,020.00 | 1,168.00 | 1,991.00 | 642.00 | 47.6 |
| Sara Lee | 17.72 | 11.67 | 17.51 | 5.33 | 43.8 |
| MGP Ingredients | 11.92 | 5.61 | 11.04 | 3.39 | 44.3 |
| Bridgford | 16.90 | 8.60 | 14.25 | 3.05 | 27.2 |
| George Weston | | | | | 26.0 |
| Grupo Bimbo | | | | | 24.0 |
| J & J Snack | 49.88 | 36.80 | 48.24 | 8.28 | 20.7 |
| Kraft Foods | 32.67 | 27.09 | 31.51 | 4.33 | 15.9 |
| Flowers Foods | 27.58 | 22.97 | 26.91 | 3.15 | 13.3 |
| Ralcorp Holdings | 69.86 | 53.90 | 65.01 | 5.30 | 8.9 |
| Pepsi Co. | 68.11 | 58.75 | 65.33 | 4.53 | 7.5 |
| J.M. Smucker | 66.07 | 53.27 | 65.65 | 3.90 | 6.3 |
| Campbell Soup | 37.59 | 32.18 | 34.75 | 0.95 | 2.8 |
| Bunge | 74.04 | 45.36 | 65.52 | 1.69 | 2.6 |
| General Mills | 38.98 | 33.11 | 35.59 | 0.19 | 0.5 |
| Maple Leaf | | | | | -2.0 |
| ConAgra | 26.32 | 21.02 | 22.58 | -0.47 | -2.0 |
| ADM | 34.03 | 24.22 | 30.08 | -1.23 | -3.9 |
| Kellogg | 56.00 | 47.28 | 51.08 | -2.12 | -4.0 |
| Tasty Baking | 7.90 | 5.95 | 6.35 | -0.38 | -5.6 |
| Lance | 27.73 | 15.91 | 23.44 | -2.86 | -10.9 |

(MBN)

[表14] カナダの州別普通小麦製粉工場数と製粉能力

| 州 名 | 工場数 | | | 小麦粉日産能力 (トン) | | |
|---------------|------|------|----|-----------------|-------|------|
| | 2011 | 2010 | 変化 | 2011 | 2010 | 変化 |
| アルバータ | 3 | 3 | 0 | 1,406 | 1,406 | 0 |
| ブリティッシュ・コロンビア | 2 | 2 | 0 | 516 | 338 | 178 |
| マニトバ | 2 | 2 | 0 | 327 | 327 | 0 |
| ノバ・スコティア | 1 | 1 | 0 | 349 | 349 | 0 |
| オンタリオ | 9 | 9 | 0 | 2,046 | 2,197 | -151 |
| ケベック | 4 | 4 | 0 | 2,197 | 2,197 | 0 |
| サスカチュワン | 2 | 2 | 0 | 907 | 907 | 0 |
| 合 計 | 23 | 23 | 0 | 8,772 | 8,745 | 27 |

(Grain & Milling Annual 2011)

[表15] カナダの州別デュラム製粉工場数と製粉能力

| 州名 | 工場数 | | | 製品日産能力 (トン) | | |
|---------------|------|------|----|----------------|-------|----|
| | 2011 | 2010 | 変化 | 2011 | 2010 | 変化 |
| アルバータ | 1 | 1 | 0 | 177 | 177 | 0 |
| ブリティッシュ・コロンビア | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| マニトバ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ノバ・スコティア | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| オンタリオ | 1 | 1 | 0 | 340 | 299 | 41 |
| ケベック | 1 | 1 | 0 | 200 | 200 | 0 |
| サスカチュワン | 1 | 1 | 0 | 340 | 340 | 0 |
| 合 計 | 4 | 4 | 0 | 1,057 | 1,016 | 41 |

(Grain & Milling Annual 2011)

[表16] カナダの製粉工場規模別上位9工場(2011年初)

| No. | 会 社 名 | 所 在 地 | | 小麦粉日産能力 (トン) |
|-----|---|---------|---------------|-----------------|
| | | 州 | 市または町 | |
| 1 | Horizon Milling GP | サスカチュワン | Saskatoon | 975 |
| 2 | ADM Milling Co.* | ケベック | Montreal | 948 |
| 3 | Horizon Milling GP | ケベック | Montreal | 748 |
| 4 | ADM Milling Co. | アルバータ | Calgary | 694 |
| 5 | ADM Milling Co. | オンタリオ | Port Colborne | 631 |
| 6 | ADM Milling Co. | オンタリオ | Midland | 544 |
| 7 | P&H Milling Group (Ellison Milling) | アルバータ | Lethbridge | 517 |
| 8 | P&H Milling Group (New-Life Mills Ltd.) | オンタリオ | Hanover | 499 |
| 9 | P&H Milling Group (Dover Flour) | オンタリオ | Cambridge | 467 |

注 * デュラムミルを含む

(Grain & Milling Annual 2011)

■資料 ★★★

| 品 名 | | 年 | 国際価格の推移 | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----|----|
| | | | 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 小麦 (シカゴ・SRW小麦No2, 期近もの) | 2003 | (3.13) | (3.34) | (3.00) | (2.86) | (3.22) | (3.16) | (3.15) | (3.79) | (3.56) | (3.35) | (4.06) | (3.87) | | |
| | 2004 | (3.86) | (3.75) | (3.73) | (3.83) | (3.54) | (3.51) | (3.33) | (3.03) | (3.37) | (3.19) | (3.06) | (3.03) | | |
| | 2005 | (2.98) | (3.00) | (3.68) | (3.09) | (3.06) | (3.23) | (3.49) | (3.16) | (3.23) | (3.39) | (3.07) | (3.19) | | |
| | 2006 | (3.29) | (3.52) | (3.62) | (3.50) | (4.00) | (3.62) | (3.66) | (3.77) | (3.93) | (5.43) | (4.82) | (4.94) | | |
| | 2007 | (4.64) | (4.53) | (4.61) | (4.88) | (4.97) | (6.07) | (6.02) | (6.97) | (8.46) | (9.53) | (7.78) | (8.55) | | |
| | 2008 | (9.32) | (9.43) | (10.93) | (8.96) | (7.76) | (8.77) | (8.11) | (8.25) | (7.27) | (5.56) | (5.34) | (5.20) | | |
| | 2009 | (5.69) | (5.36) | (5.44) | (5.22) | (5.78) | (5.75) | (5.35) | (4.82) | (4.71) | (5.05) | (5.39) | (5.37) | | |
| | 2010 | (5.10) | (4.87) | (4.79) | (4.91) | (4.72) | (4.52) | (5.96) | (7.03) | (7.27) | (7.05) | (6.73) | (7.65) | | |
| | 2011 | (7.73) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | (8.40) | | |
| とうもろこし (シカゴ、イエロー・ コーンNo2、期近もの) | 2003 | (2.36) | (2.36) | (2.33) | (2.39) | (2.46) | (2.39) | (2.15) | (2.20) | (2.29) | (2.26) | (2.37) | (2.47) | | |
| | 2004 | (2.67) | (2.83) | (3.02) | (3.16) | (3.00) | (2.86) | (2.36) | (2.25) | (2.14) | (2.06) | (1.99) | (2.00) | | |
| | 2005 | (2.00) | (2.00) | (2.14) | (2.08) | (2.08) | (2.22) | (2.37) | (2.15) | (2.04) | (2.02) | (1.93) | (2.02) | | |
| | 2006 | (2.13) | (2.23) | (2.24) | (2.37) | (2.45) | (2.38) | (2.44) | (2.30) | (2.42) | (3.03) | (3.56) | (3.70) | | |
| | 2007 | (3.91) | (4.11) | (4.02) | (3.62) | (3.70) | (3.81) | (3.26) | (3.31) | (3.51) | (3.69) | (3.69) | (3.86) | | |
| | 2008 | (5.08) | (5.01) | (5.56) | (6.06) | (5.91) | (7.33) | (6.47) | (5.30) | (5.62) | (3.88) | (3.86) | (3.75) | | |
| | 2009 | (3.65) | (3.63) | (3.92) | (3.94) | (4.17) | (4.06) | (3.30) | (3.19) | (3.47) | (3.73) | (3.91) | (4.08) | | |
| | 2010 | (3.72) | (3.62) | (3.63) | (3.64) | (3.63) | (3.54) | (3.94) | (3.10) | (1.26) | (1.47) | (1.54) | (1.60) | | |
| | 2011 | (6.49) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (6.91) | (5.63) | (5.84) | (5.84) | | |

(注) 1. 小麦は、シカゴ相場による月央の終値である(2011年1月分は1月14日、2月分は2月15日)。
2. とうもろこしはシカゴ相場による月平均価格である。

—「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきた
いと考えていますので、ご意見等がございました
らお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

★編集後記

- 手品は何度見ても楽しい。O・Bになってボランティアで手品を見せている先輩がいるがとても素人には見えない。手品を上手に見せるには、行う事の片方に注意を引きつけて見せる。実は見せない片方に種(真実)があるのだ。片方のみを見せるテクニックは、手品を見せる前に、目を奪う発言をして注意を引く。その隙に種(答え)が仕込まれる。気を引く発言には注意が必要である。
 - ところでTPPについての各方面的発言を、多くのマス・メディアで見聞きするが、どうも全体がハッキリと明示されていないように感じる。TPPについての解説はわかるが、<産業別><生産、流通、消費別>それぞれの問題点が整理され対応のあり方が提案されたのをまだ目にしていない。検討はこれからなのだろうが、期限は遠くないのではないか。それぞれの立場では発言も多く、是非も示されているが、それぞれの分野で、何が困るのか、どのように良くなるのか、日本のとるべき立場等、全体のイメージがわかるものが示されることを多くの人が待っているのではないか。一方的な説明ばかりだと、手品を見るのと同じになる。
 - 最近、明治の頃の鉄道写真を見た。初期のSLが力強く走っていた。周りは、田圃と畑と藁葺の家が点在するだけである。現在は電車の軌道横を国道と高速道路と新幹線が走っている。何もないところに初めてSLの軌道を敷設した人は、今日を想像できたであろうか。その勇気と先見の目には敬意を表す。しかし現状、開国・自由化論も結構だが、重要なのは国内産業の将来像を示すことではないだろうか。
- 原料の8割以上を輸入している製粉産業の裾野は広く消費者に直結している。

小麦粉は 豊かな食事の コンダクター

あなたの豊かな食生活のために

週末もパンを囲んで楽しい団欒

さそいあい、いつでも、どこでも、うどん・そば

インスタントラーメン
は世界の食文化

希望の一日はホットケーキから

麺には旬の味、春・夏・秋・冬

家族で楽しい、みんなでおいしい
ビスケット

パンなら父さんも、私も、僕も三ツ星級

パン粉がきめて、おいしいコロッケ・とんかつ

てんぷら・ギョウザ
ムニエルはわが家の味

やきふなまふ
現代に生きかう伝統食品 烧き生地

(財) 製粉振興会
全国小麦粉実需者団体協議会
製粉協会・(協) 全国製粉協議会

製粉振興 2月号 (No.530)

発 行／平成23年2月20日

編集発行人／落合 通人

発行所／財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel. (03) 3666-2712(代表)

<http://www.seifun.or.jp>

Fax.(03) 3667-1883

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載